

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度	自	平成19年10月1日
(第84期)	至	平成20年9月30日

太陽毛絲紡績株式会社

E00555

# 目次

頁

表紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	5
5. 従業員の状況	5
第2 事業の状況	6
1. 業績等の概要	6
2. 生産、受注及び販売の状況	7
3. 対処すべき課題	7
4. 事業等のリスク	8
5. 経営上の重要な契約等	9
6. 研究開発活動	9
7. 財政状態及び経営成績の分析	9
第3 設備の状況	11
1. 設備投資等の概要	11
2. 主要な設備の状況	11
3. 設備の新設、除却等の計画	11
第4 提出会社の状況	12
1. 株式等の状況	12
(1) 株式の総数等	12
(2) 新株予約権等の状況	12
(3) ライツプランの内容	12
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	12
(5) 所有者別状況	12
(6) 大株主の状況	13
(7) 議決権の状況	13
(8) ストックオプション制度の内容	13
2. 自己株式の取得等の状況	14
3. 配当政策	14
4. 株価の推移	14
5. 役員の状況	15
6. コーポレート・ガバナンスの状況	16
第5 経理の状況	18
1. 連結財務諸表等	19
(1) 連結財務諸表	19
(2) その他	44
2. 財務諸表等	45
(1) 財務諸表	45
(2) 主な資産及び負債の内容	63
(3) その他	67
第6 提出会社の株式事務の概要	68
第7 提出会社の参考情報	69
1. 提出会社の親会社等の情報	69
2. その他の参考情報	69
第二部 提出会社の保証会社等の情報	70

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年12月19日
【事業年度】	第84期（自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日）
【会社名】	太陽毛糸紡績株式会社
【英訳名】	TAIYO WOOLEN SPINNING CO., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 内山 正治
【本店の所在の場所】	埼玉県川口市上青木五丁目5番9号
【電話番号】	(048) 265 - 2414(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 山中 庸
【最寄りの連絡場所】	埼玉県川口市上青木五丁目5番9号
【電話番号】	(048) 265 - 2414(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 山中 庸
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期
決算年月	平成16年9月	平成17年9月	平成18年9月	平成19年9月	平成20年9月
売上高（千円）	1,536,863	1,570,373	2,059,474	1,622,748	959,816
経常利益又は経常損失（△） （千円）	24,099	△26,560	42,872	△10,271	△34,400
当期純利益又は当期純損失 （△）（千円）	19,317	△23,586	14,544	△69,688	△71,634
純資産額（千円）	1,590,254	1,659,446	1,721,143	1,622,214	1,410,351
総資産額（千円）	5,681,067	5,799,379	5,885,477	4,259,861	3,899,034
1株当たり純資産額（円）	444.60	464.35	481.62	453.99	394.76
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 （△）（円）	5.39	△6.60	4.07	△19.50	△20.05
自己資本比率（％）	27.99	28.61	29.24	38.08	36.17
自己資本利益率（％）	1.58	△1.45	0.86	△4.30	△4.72
株価収益率（倍）	7.42	△12.88	13.27	△4.31	△4.14
営業活動によるキャッシュ・ フロー（千円）	171,074	△79,415	64,113	168,239	△120,890
投資活動によるキャッシュ・ フロー（千円）	△9,869	△10,942	13,166	1,113,823	△44,325
財務活動によるキャッシュ・ フロー（千円）	△175,653	38,893	△83,996	△1,234,753	87,674
現金及び現金同等物の期末残 高（千円）	197,095	145,603	138,849	186,148	108,649
従業員数（人）	69	72	68	68	61

- (注) 1. 売上高には消費税等（消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。）は含まれておりません。
2. 第81期、第83期及び第84期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 第80期及び第82期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第82期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」（企業会計基準第5号 平成17年12月9日）及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」（企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日）を適用しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期
決算年月	平成16年9月	平成17年9月	平成18年9月	平成19年9月	平成20年9月
売上高(千円)	1,399,001	1,496,179	1,981,809	1,571,119	917,871
経常利益又は経常損失(△) (千円)	26,841	△25,997	37,703	7,113	△17,577
当期純利益又は当期純損失 (△)(千円)	22,499	△22,779	9,552	△64,653	△64,100
資本金(千円)	300,000	300,000	300,000	300,000	100,000
発行済株式総数(千株)	3,589	3,589	3,589	3,589	3,589
純資産額(千円)	1,606,675	1,689,340	1,742,303	1,645,651	1,444,925
総資産額(千円)	5,699,910	5,824,562	5,905,478	4,280,187	3,937,064
1株当たり純資産額(円)	449.19	472.72	487.54	460.55	404.44
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 (△)(円)	6.28	△6.37	2.67	△18.09	△17.94
自己資本比率(%)	28.19	29.00	29.50	38.45	36.70
自己資本利益率(%)	1.42	△1.38	0.55	△3.93	△4.15
株価収益率(倍)	6.37	△13.34	20.20	△4.64	△4.63
配当性向(%)	—	—	—	—	—
従業員数(人)	13	14	13	14	13

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 第81期、第83期及び第84期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第80期及び第82期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第82期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。

## 2 【沿革】

- 昭和12年3月 東京市日本橋区堀留町において当社初代社長渡邊平八郎が太陽毛糸紡績株式会社を創立し、紡毛糸の製造を開始。
- 昭和16年11月 蕨紡績株式会社を買収合併。全設備を川口工場に移設。
- 昭和25年5月 毛織工場新設。
- 昭和25年12月 第四紡績工場新築。紡毛カード及びミュール増設。
- 昭和35年3月 第一号倉庫新築（鉄筋コンクリート三階建）。
- 昭和36年12月 梳毛工場新築。紡毛専業から梳毛事業に進出。
- 昭和38年6月 日本証券業協会店頭市場に登録。
- 昭和54年6月 太平不動産株式会社（当時・子会社）を設立。
- 昭和56年2月 太陽流通株式会社（当時・子会社）を設立。
- 昭和56年7月 陸前太陽株式会社（当時・子会社）の紡毛糸設備を当社宮城工場として発足させ、陸前太陽株式会社は梳毛糸中心の生産体制とする。
- 昭和61年10月 埼玉県川口市に新工場竣工。1階2,231㎡（紡毛紡績工場）、2階1,178㎡（管理棟）。
- 昭和63年10月 中国・天津市に合弁で天津太陽毛紡有限公司（紡毛紡績工場）を設立。
- 平成4年9月 ゼニア・パルファー社（イタリア）と企画開発と市場開拓の業務提携契約締結。
- 平成5年10月 川口工場と宮城工場を統合し、宮城工場に一本化。
- 平成6年10月 東京都中央区に東京営業所を開設。
- 平成7年6月 中国・宜興市に合弁で宜興太陽毛紡織有限公司（紡毛紡績工場）を設立。
- 平成7年11月 川口本社建物増築完了。
- 平成7年11月 株式会社ユニリビングと川口工場跡地の土地建物賃貸借契約を締結。
- 平成10年6月 ヤマト運輸株式会社と駐車場跡地（埼玉県川口市）の土地建物賃貸借契約を締結。
- 平成12年7月 太陽テキスタイルサポート株式会社（現・連結子会社）を設立。
- 平成12年9月 陸前太陽株式会社の解散を決議。
- 平成13年8月 陸前太陽株式会社の会社清算手続終了。
- 平成14年11月 東京営業所を閉鎖し、川口本社に営業部門を移転。
- 平成16年6月 太平不動産株式会社を太陽流通株式会社に吸収合併。
- 平成16年8月 日本証券業協会店頭管理銘柄の登録取消に伴い、日本証券業協会のグリーンシート銘柄として指定。
- 平成16年9月 太陽流通株式会社を吸収合併。この合併に伴い、日本通運株式会社及び埼玉三菱自動車販売株式会社（現・関東三菱自動車販売株式会社）との間で締結されていた土地建物賃貸借契約を継承。
- 平成19年3月 日本通運株式会社との間で締結されていた土地建物賃貸借契約を解除。
- 平成19年4月 同上物件を成美堂出版社株式会社との不動産売買契約により譲渡、同月に受渡し完了。
- 平成20年6月 天津太陽毛紡有限公司との合弁契約を終了。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、連結子会社1社及び関連会社1社により構成されており、紡毛糸・梳毛糸・毛織物及び編織物の製造・販売、不動産の賃貸を主たる業務としております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、次の3部門は「第5 経理の状況 1.（1）連結財務諸表 注記」に掲げる事業の種類別セグメント情報の区分と同一であります。

(1) 紡績・毛織物・編織物事業 —— 紡毛糸・梳毛糸・毛織物及び編織物の製造・販売（会社総数3社）

当社が製造・販売を行っているほか、太陽テキスタイルサポート株式会社が当社より原材料の供給を受け、紡毛糸・梳毛糸の製造を行っております。また、海外で宜興太陽毛紡織有限公司（中国、宜興市）が紡毛糸の製造・販売を行っております。

なお、前連結会計年度まで持分法適用関連会社であった天津太陽毛紡有限公司は、平成20年6月に合弁契約を終了したため、持分法適用関連会社では無くなりました。

(2) 賃貸事業 —— 不動産の賃貸及び管理（会社総数1社）

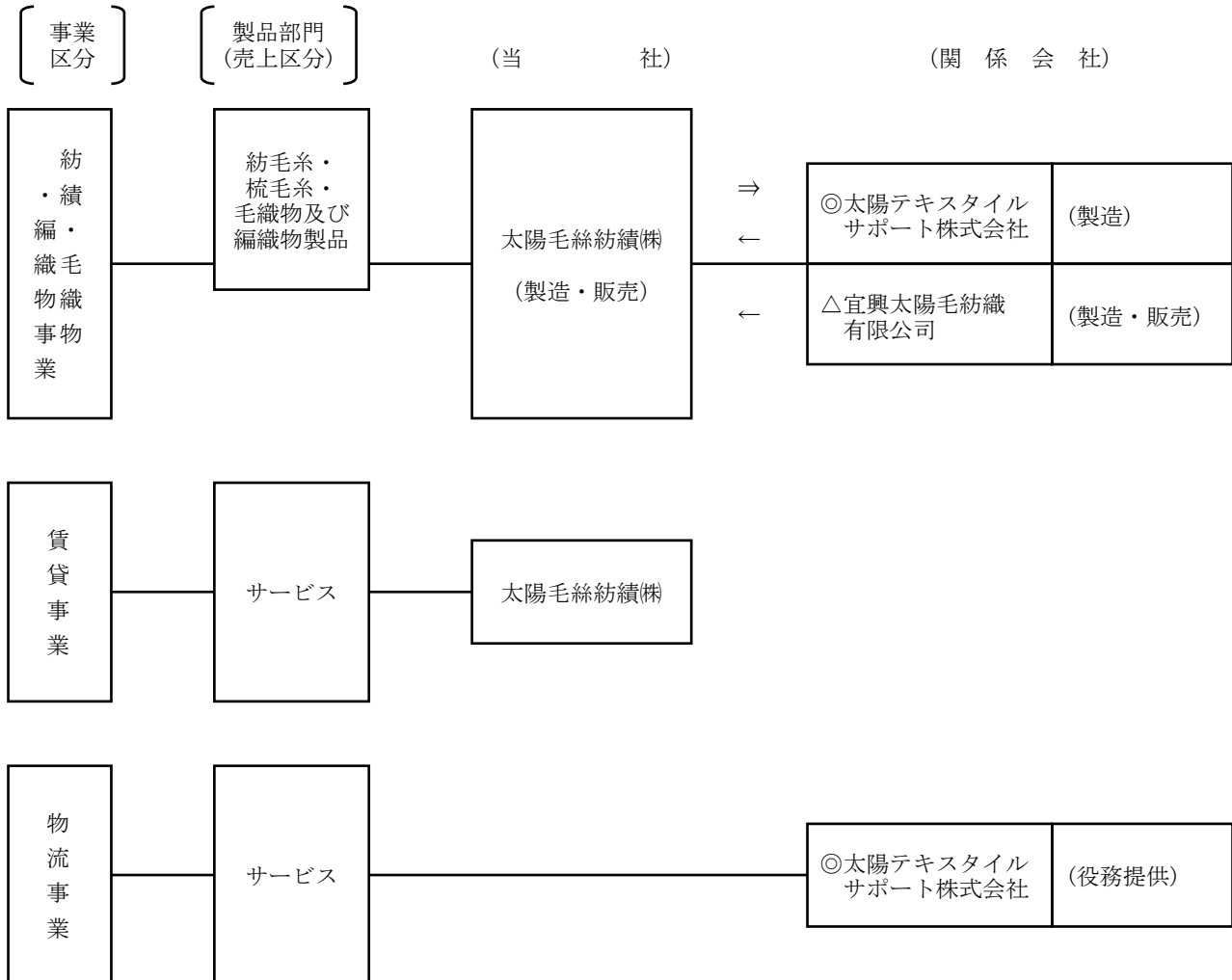
当社が店舗、倉庫及び不動産の賃貸管理を行っております。

(3) 物流事業 —— 物流加工（会社総数1社）

太陽テキスタイルサポート株式会社が物流加工を行っております。

事業の系統図

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



◎ 連結子会社、 △ 関連会社で持分法適用会社  
→ 製品、 ⇒ 材料

#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容	役員の兼任 (名)
(連結子会社) 太陽テキスタイルサポート株式会社 (注2)	埼玉県川口市	(千円) 30,000	物流事業 紡績・毛織物・編織物事業	100.0	当社グループの物流部門を統括しております。 当社所有の土地・建物を賃借しております。 当社の紡毛糸・梳毛糸の製造をしております。 当社所有の土地・建物・機械を賃借しております。	4
(持分法適用関連会社) 宜興太陽毛紡織有限公司	中華人民共和国 宜興市	(千中国元) 9,960	紡績・毛織物・編織物事業	25.8	紡毛糸の製造をしております。	2

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しております。  
2. 太陽テキスタイルサポート(株)は平成19年8月31日に増資し、資本金の額が3,000万円になったため「企業内容等の開示に関する内閣府令」(昭和48年1月30日 大蔵省令第5号)第19条第2項第3号に規定する特定子会社となっております。

#### 5【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成20年9月30日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数 (人)
紡績・毛織物・編織物事業	27
賃貸事業	1
物流事業	31
全社 (共通)	2
合計	61

- (注) 1. 従業員数は就業人員 (常用パートを含んでおります。) であります。  
2. 全社 (共通) として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

##### (2) 提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数 (人)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与 (千円)
13	44歳3か月	14年2か月	4,578

- (注) 1. 従業員は就業人員 (常用パートを含んでおります。) であります。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

##### (3) 労働組合の状況

当社グループには、太陽毛糸労働組合が組織 (組合員数10人) されており、連合傘下のU I ゼンセン同盟繊維関連部会に加盟しております。

労使関係は、相互の信頼と協調精神とにより、円満に推移しております。



## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度のわが国経済は、サブプライムローン問題の深刻化を背景に米国の景気後退懸念が拡大、急激な円高、株安に見舞われました。更に原材料価格の高騰と個人消費の低迷も加わり企業収益が急激に悪化し、2002年以来続いてきた戦後最長の景気回復も後退局面に入りました。更に連結会計年度末に顕在化した米国金融危機のため米国経済の一段の減速が予想される事態になっており、日本の景気後退も長引く恐れが出てまいりました。とりわけ中小企業にとっては収益環境が一段と厳しくなっており経営困難な状況が続いております。

特に天候要因並びに個人消費動向に大きく影響される繊維業界におきましては、年間を通じての天候不順や個人消費低迷の影響を受けて依然として厳しい状況が続きました。このような経済環境の中、当社は経営の効率化を図り非効率部門の統廃合を実施し、経費の削減を進めると共に顧客のニーズに的確に応えられるよう商品戦略や営業体制を整備してまいりました。

その結果、当連結会計年度の受注高990,591千円（前連結会計年度比34.9%減）、売上高959,816千円（前連結会計年度比40.9%減）となり、営業利益22,076千円（前連結会計年度比66.0%減）、経常損益34,400千円の損失（前連結会計年度10,271千円の損失）となりました。

また、特別損失として、資産の健全化の観点から長期間在庫となっている「たな卸資産」に対し長期滞留たな卸資産評価損として21,520千円を計上すると共に、経営資源の効率化の観点から持分法適用関連会社の合弁契約の終了に伴う関係会社出資金譲渡損として12,847千円を計上いたしました。また、平成20年岩手宮城内陸地震の影響による工場・建物の一部損傷の修繕等の費用を地震被災損として3,882千円を計上いたしました。この結果、当期純損益は71,634千円の損失（前連結会計年度69,688千円の損失）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①紡績・毛織物・編織物事業

当社グループの売上高の約73%を占める主力事業であります。

当連結会計年度における経営環境は、年間を通じての天候不順に加え、原材料価格の高騰、中国などからの安価な製品輸入の増加、個人消費の低迷の影響を受け市況が低迷し予想を遥かに上回る需要急減のなか、消費トレンドの多様化による一部ウール離れなどの影響もあり、当社グループにとって厳しい環境が続きました。このような環境のなか、当事業におきましては非効率部門の統廃合を実施、経費の削減を進めると共に、顧客のニーズを捉え需要の多様化に対処するために、展開素材の拡大企画提案力の充実に努めると共に、生産体制の整備、効率化に積極的に取り組みました。しかしながら成果には至らず、受注高738,215千円（前連結会計年度比39.8%減）、売上高707,438千円（前連結会計年度比46.7%減）、営業利益3,226千円（前連結会計年度比92.8%減）、生産高257,768千円（前連結会計年度比49.6%減）となりました。

#### ②賃貸事業

当事業におきましては、懸案でありました固定資産の譲渡が前連結会計年度4月に完了いたしました。これによる受取賃料減少額は36,000千円でありましたが、社宅の一部を賃貸住宅に変更したこと、および一部賃貸物件で賃料改定を行った等により、受注高158,409千円（前連結会計年度比17.2%減）、売上高158,409千円（前連結会計年度比17.2%減）、営業利益108,615千円（前連結会計年度比5.4%減）とすることが出来ました。

#### ③物流事業

当連結会計年度における経営環境は、前連結会計年度以上の閑繁の激しい状況が続きました。このような環境の中、当事業におきまして新規得意先を積極的に開拓し取引を行いました。しかしながら、その結果は、受注高93,967千円（前連結会計年度比10.4%減）、売上高93,967千円（前連結会計年度比10.4%減）、営業損益1,428千円の利益（前連結会計年度14,439千円の損失）となりました。

## (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、財務活動によって生じた資金および前連結会計年度より保有しておりました預金の一部を営業活動及び投資活動で使用しました結果108,649千円（前年同期比41.6%減）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は120,890千円（前年同期168,239千円の収入）となりました。

これは主にたな卸資産の増加および仕入債務の減少などによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は44,325千円（前年同期1,113,823千円の収入）となりました。

これは主に有形固定資産の取得、および保険積立金の積立による支出などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は87,674千円（前年同期1,234,753千円の支出）となりました。

これは主に借入金の借入によるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

当社グループの生産・販売品目は極めて多種多様であり、その生産形態も各事業所で幾多の品目を分担生産し、同種の品目であっても、その生産単位等は様ではなく画一的表示が困難であるため、事業の種類別セグメントごとに生産規模及び受注規模を金額あるいは数量で示すことはしていません。

このため生産、受注及び販売の状況については、「1.業績等の概要（1）業績」における各事業の種類別セグメント業績に関連づけて示しております。

最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)		当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
三井物産(株)	225,152	13.9	—	—
モリリン(株)	142,948	8.8	126,136	13.1
(株)ユニリビング	111,108	6.8	112,569	11.7

## 3【対処すべき課題】

今後の経営環境を見ますと、原材料価格高騰と個人消費低迷が続いており、現在も続く金融不安に端を発した世界経済の減退は、各国実体経済にも大きく影響を及ぼし、不安要因として懸念いたしております。国内におきましても、景気後退が更に長引く恐れが出ており、とりわけ中小企業の収益環境が一段と厳しくなっております。

このような経済環境を考慮いたしまして、当社グループが今後の事業を展開するにあたり対処すべき課題として認識いたしておりますのは、以下のとおりであります。

### ①事業収益の改善

当連結会計年度の経営成績は、売上高が前連結事業年度に比較して大幅な減収になったことにより、営業利益も減益となりました。経常利益は、2年度連続した黒字から経常損失となりました。しかしながら、売上総利益率の改善および販売費の圧縮により、売上高の減少に比して営業利益の減益を食い止めることが出来ました。次連結会計年度以降も安定した収益基盤を作るため、当連結会計年度に引き続き利益の確保を重要課題と考え、経営資源の有効活用を目指した見直しを続けることにより、安定した企業体質を確立させ、事業収益の向上を図ってまいります。

### ②借入金の圧縮

当連結会計年度より輸入業務を商社仲介したのから、自社独自によるものに変更いたしました。これにより、支払手形の発行が無くなり、一部を借入による資金調達で行いました。当連結会計年度末の借入金残高は、1,554,392千円（前連結会計年度1,466,670千円）と前連結会計年度比87,722千円増となりましたが、前連結会計年度末の支払手形残高が、92,059千円あったことを勘案しますと予定の範囲内に止めることが出来ました。

今後とも、借入金につきましては圧縮が必要であると考えております。積極的に在庫の圧縮ならびに投資有価証券の譲渡処分を行う所存であります。ただし、譲渡処分に当たっては大きな損失を発生させてまで処分を行う考えは持っておりません。

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、本項において将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末（平成20年9月30日）現在において判断したものであります。

(1) 経済情勢及び消費低迷等による影響について

当社グループは、売上高の90%以上が国内向けとなっており、わが国の経済情勢や消費低迷等により当社グループの経営成績は影響を受ける可能性があります。

(2) 季節要因による影響について

冷夏暖冬などの異常気象により、秋冬物商品の需要が著しく低下した場合には当社グループの経営成績は影響を受ける可能性があります。

(3) 原材料価格等の変動による影響について

羊毛、特殊獣毛など、当社グループの使用する原材料の価格は、国際市況に連動しているため、国際的な原材料需給の変動、原材料輸出における経済・社会情勢等の変化、天災地変等に起因して市況が変動した場合には当社グループの経営成績は影響を受ける可能性があります。

(4) 借入金の金利の変動、その他金融市場の変動による影響について

当連結会計年度末における当社グループの連結有利子負債残高は1,554,392千円であり、金利情勢、その他金融市場が変動した場合には当社グループの経営成績は影響を受ける可能性があります。

(5) 有価証券等の保有資産価値の変動による影響について

当連結会計年度末における当社グループの投資有価証券残高は246,587千円であり、投資先の業績不振、証券市場における市況の悪化等により評価損が発生した場合には当社グループの経営成績は影響を受ける可能性があります。

(6) 為替相場の変動による影響について

当社グループは、原材料の輸入において外貨建取引を行っていること及び外貨建の資産・負債を保有していることから、為替相場の変動により当社グループの経営成績は影響を受ける可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

(1) 昭和63年10月20日、当社は中華人民共和国天津市苗街実業公司及び日本国株式会社ウェルストンとの間に合弁契約を締結し、中華人民共和国天津経済技術開発地区において、羊毛、兎毛、ラクダ毛等を原料とする毛紡績品生産のため天津太陽毛紡有限公司を設立いたしました。

当社は、合弁会社に紡績加工技術を提供するとともに、合弁会社が必要とする羊毛、ナイロン等合成繊維及びその他の原料の中国国外での購入を助け、また合弁会社が生産した製品の中国国外あるいは商品輸出企業への販売を行うこととなっております。なお、平成2年に天津針織品進出口会社が、平成3年には丸紅株式会社が資本参画しております。

平成15年12月末日をもって合弁契約期間が満了いたしました。当事者間で協議の結果、合弁期間を5年間延長することといたしました。

なお、期間延長にあたり株式会社ウェルストン、天津針織品進出口公司及び丸紅株式会社は出資持分全額を天津潤楊金属製品有限公司に譲渡しております。

平成20年12月末日をもって延長された合弁契約期間が満了することに伴い、当社は平成20年6月に合弁契約を終了いたしました。

(2) 平成4年9月1日、当社はイタリアのゼニア・バルファー社との間に業務提携契約を締結し、企画開発力の充実と市場開拓を図ることとなりました。契約期間は、当事者の何れか一方からの契約放棄の申出があるまでであります。

(3) 当社は国内工場の集約に伴い生じた遊休地の有効活用を検討し、株式会社ユニリビングとの間に川口工場跡地の土地、建物賃貸借契約覚書を平成6年9月9日締結、平成7年11月13日土地建物賃貸借契約を締結し、同月建物増築工事完了にともない同社に引渡しました。契約期間は20年間であります。

(4) 平成7年6月20日、当社は中華人民共和国宜興市兎羊毛毛紡織廠及び日本国丸紅株式会社との間に合弁契約を締結し、中華人民共和国江蘇省宜興市徐舎鎮において、羊毛、兎毛、ラクダ毛等を原料とする毛紡績品、毛織物及びニット製品生産のため宜興太陽毛紡織有限公司を設立いたしました。

当社は、合弁会社に紡績加工技術を提供するとともに、合弁会社が必要とする羊毛、ナイロン等合成繊維及びその他の原料の中国国外での購入を助け、また合弁会社が生産した製品の中国国外あるいは商品輸出企業への販売を行うこととなっております。

なお、平成15年12月に宜興市兎羊毛毛紡織廠は出資持分全額を宜興市大洋毛紡織品有限公司に譲渡しております。また、平成19年4月、丸紅株式会社は出資持分全額を当社に譲渡しております。

(5) 当社は遊休不動産の有効活用を検討し、ヤマト運輸株式会社との間に平成10年6月10日土地建物賃貸借契約を締結し、同月建物新築工事完了にともない同社に引渡しました。契約期間は15年間であります。

## 6【研究開発活動】

当社グループは、紡績・毛織物・編織物事業においてファッションの流行に対応していくため、紡績糸の研究開発を進めております。

当連結会計年度における研究開発費の総額は10千円であります。

## 7【財政状態及び経営成績の分析】

当社グループに関する財政状態及び経営成績の分析・検討内容は、原則として連結財務諸表に基づいて分析した内容であります。

なお、本項において将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末（平成20年9月30日）現在において判断したものであります。

### (1) 当連結会計年度の経営成績及び財政状態の分析

#### ①経営成績

当連結会計年度における経営成績の概況につきましては、「1 業績等の概要 (1) 業績」に記載しております。

#### ②財政状態

当連結会計年度末の総資産残高は、前連結会計年度末比で360,826千円（8.5%）減少し3,899,034千円となりました。流動資産は、たな卸資産の増加、現金及び預金及び売掛債権の減少等により、前連結会計年度末比で130,164千円（13.9%）減少し803,655千円となりました。また、固定資産は、投資有価証券の時価評価による減少等により、前連結会計年度末比で230,662千円（6.9%）減少し3,095,379千円となりました。

負債残高は、前連結会計年度末比で148,963千円（5.6%）減少し2,488,683千円となりました。流動負債は、仕入債務、短期借入金の減少等により、前連結会計年度末比で186,072千円（20.3%）減少し732,334千円となりました。また、固定負債は、長期借入金の増加等により、前連結会計年度末比で37,108千円（2.2%）増加し1,756,348千円となりました。なお、有利子負債残高につきましては、前連結会計年度末比で87,722千円（6.0%）増加し1,554,392千円となりました。

純資産では、市況不安による上場株式の評価差額金の減少等により、前連結会計年度末比で211,863千円（13.1%）減少し1,410,351千円となりました。

この結果、連結ベースの自己資本比率は、前連結会計年度末の38.08%から36.17%となり、1株当たり純資産額は前連結会計年度末の453円99銭から394円76銭に減少いたしました。

(2) 経営成績に重要な影響を与える要因について

「4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

(3) 流動性の管理方針

当社グループは、グループ各社の剰余資金の一元管理を図るシステムを構築し、資金効率の向上に努めております。

当社グループの資金の状況につきましては、「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載しております。

(4) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、収益力、有利子負債等グループの財政状態を認識し、現在の事業規模及び入手可能な情報に基づき経営資源の最も効率的な運用を行い、企業価値を最大限に高めるべく努めております。

「3 対処すべき課題」にも記載のとおり、当社グループでは今後も利益を確保することを最重要課題と認識し、これに努めてまいります。

(5) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成しておりますが、その作成にあたっては、経営者による会計方針の選択・適用等、開示に影響を与える判断と見積りが必要となります。これらの見積りについては、過去の実績等を勘案し、合理的に判断しておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りとは異なる場合があります。

当社グループが採用している重要な会計方針（「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載）のうち、特に次の重要な会計方針が連結財務諸表作成における重要な見積りの判断に大きな影響を及ぼす事項であると考えております。

①貸倒引当金の計上

当社グループの保有する債権に係る損失が見込まれる場合、その損失に充てる必要額を見積り、引当金を計上しておりますが、将来、債務者の財政状況が悪化した場合、引当金の追加計上等による損失が発生する可能性があります。

②有価証券の減損処理

当社グループの保有する株式については、時価のある有価証券、時価のない有価証券ともに、合理的な判断基準を設定のうえ、減損処理の要否を検討しております。従って、将来、保有する株式の時価や投資先の財務状況が悪化した場合には、有価証券評価損を計上する可能性があります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、紡績・毛織物・編織物事業を中心に21,728千円の設備投資を実施いたしました。  
紡績・毛織物・編織物事業においては、紡績設備の改善を宮城工場で13,078千円の設備投資を実施いたしました。  
賃貸事業においては、賃貸設備の改善等のため8,650千円の設備投資を実施いたしました。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成20年9月30日現在

事業所名 (所在地)	事業の種類別セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
宮城工場 (宮城県栗原市)	紡績・毛織物・ 編織物事業	紡毛糸・梳毛糸 生産設備	100,126	29,602	86,878 (13,918)	1,059	217,665	—
本社 (埼玉県川口市)	紡績・毛織物・ 編織物事業	営業部施設	22,861	—	175,215 (1,453)	—	198,077	11
	賃貸事業	賃貸 設備 (注) 2	263,861	—	1,691,388 (14,568)	—	1,955,249	1
	物流事業	その他 設備	19,258	48	281,925 (2,338)	277	301,510	—
	全社	本社 設備	2,155	—	57,907 (670)	500	60,562	1

##### (2) 国内子会社

平成20年9月30日現在

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
太陽テキスタイル サポート株式会社	本社 (埼玉県川口市)	物流事業	その他 設備	—	—	—	94	94	48

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、器具・備品であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。  
2. 貸与先は関東三菱自動車販売株式会社、株式会社ユニリビング及びヤマト運輸株式会社であります。  
3. 現在休止中の設備はありません。  
4. 従業員数は各会社に在籍している人数であります。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末における重要な設備の新設、改修及び除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	11,629,000
計	11,629,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成20年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成20年12月19日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,589,000	3,589,000	—	(注)
計	3,589,000	3,589,000	—	—

(注) 当社株式は日本証券業協会よりグリーンシート銘柄のオーディナリー区分に指定を受けております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成20年1月31日 (注)	—	3,589	△200,000	100,000	—	122,741

(注) 減資によるものであります。

#### (5)【所有者別状況】

平成20年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							計	単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	2	2	10	1	—	259	274	—
所有株式数 (単元)	—	249	1	579	1	—	2,717	3,547	42,000
所有株式数の 割合(%)	—	7.02	0.03	16.32	0.03	—	76.60	100.00	—

(注) 1. 自己株式16,351株は、「個人その他」に16単元及び「単元未満株式の状況」に351株を含めて記載しております。

2. 上記「個人その他」の中には名義書換失念株式が147単元含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

平成20年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
渡邊 義郎	東京都渋谷区	616	17.16
森田 昇	埼玉県新座市	404	11.25
渡邊 峯	東京都渋谷区	402	11.20
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町1-4-2	229	6.39
内山 正治	東京都渋谷区	199	5.56
太平恒産有限公司	東京都大田区新蒲田1-11-4	167	4.65
三井住友海上火災保険株式 会社	東京都中央区新川2-27-2	149	4.16
市田 昌子	東京都豊島区	101	2.81
株式会社埼玉りそな銀行	埼玉県さいたま市浦和区常盤7-4-1	100	2.78
太陽毛糸共済会	埼玉県川口市上青木5-5-9	76	2.11
計	—	2,444	68.11

(注) 上記のほか、名義書換失念株式が147千株あります。

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 16,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式3,531,000	3,531	—
単元未満株式	普通株式 42,000	—	—
発行済株式総数	3,589,000	—	—
総株主の議決権	—	3,531	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、名義書換失念株式が147,000株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同名義書換失念株式の完全議決権株式に係る議決権の数147個が含まれております。

## ② 【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
(自己株式) 太陽毛糸紡績株式会社	埼玉県川口市上青 木5-5-9	16,000	—	16,000	0.45
計	—	16,000	—	16,000	0.45

## (8) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。



## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価格の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	600	48,000
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成20年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満買取による株式は含まれておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

## 3【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保の充実と安定した配当を継続して実施していくことを勘案しつつ、収益状況に対応して株主に対する利益還元を基本方針としております。

当社は年1回、剰余金の期末配当を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当の決定機関は、株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては、当期純損失を計上のため無配と決定いたしました。

## 4【株価の推移】

### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期
決算年月	平成16年9月	平成17年9月	平成18年9月	平成19年9月	平成20年9月
最高(円)	121	90	115	84	110
最低(円)	28	59	48	84	83

(注) 最高・最低株価は、平成16年7月30日までは日本証券業協会の公表したものに、平成16年8月2日より日本証券業協会が運営するグリーンシート銘柄での売買価格によっております。

### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成20年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	84	—	—	—	84	83
最低(円)	84	—	—	—	84	83

(注) 最高・最低株価は、日本証券業協会が運営するグリーンシート銘柄での売買価格によっております。

なお、平成20年5月、6月、7月の最高・最低株価はグリーンシート銘柄において取引が成立していないため、記載しておりません。

## 5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長		渡邊 義郎	大正13年7月10日	昭和25年3月 高島屋飯田株式会社(現丸紅株式会社)入社 昭和26年11月 当社 取締役就任 昭和27年10月 高島屋飯田株式会社退社 昭和44年11月 当社 専務取締役就任 昭和45年11月 当社 代表取締役就任 昭和48年11月 当社 代表取締役社長就任 平成7年12月 当社 代表取締役会長就任 平成19年12月 当社 取締役会長就任(現任)	(注) 2	616
取締役社長 (代表取締役)		内山 正治	昭和31年12月17日	昭和59年4月 当社へ入社 昭和62年11月 当社 原料部長 昭和62年12月 当社 取締役就任 平成4年4月 当社 常務取締役就任 平成7年12月 当社 代表取締役社長就任(現任) 平成17年12月 太陽テキスタイルサポート株式会社 代表取締役社長就任(現任)	(注) 1, 2	199
取締役	経営企画室長	名越 文紀	昭和24年12月5日	昭和48年4月 丸紅株式会社入社 平成8年7月 丸紅(天津)貿易有限公司 総経理 平成10年4月 当社へ出向 平成14年10月 当社 営業統括 平成15年4月 当社へ入社 平成15年12月 当社 取締役就任(現任)	(注) 2	8
取締役	管理本部長	山中 庸	昭和27年2月26日生	昭和49年4月 株式会社埼玉銀行(現株式会社埼玉りそな銀行)入社 平成13年11月 当社へ出向 平成14年10月 当社 総務部長 平成16年6月 当社へ入社 平成19年12月 当社 取締役就任(現任)	(注) 2	1
取締役		浅見 健司	昭和24年8月13日生	昭和47年4月 当社へ入社 平成5年11月 当社 原糸事業部長 平成7年12月 当社 取締役営業本部長 平成9年6月 当社 取締役社長付 平成10年10月 当社 取締役営業本部長 平成12年7月 太陽テキスタイルサポート株式会社取締役就任(現任) 平成12年12月 当社 取締役退任 平成19年12月 当社 取締役就任(現任)	(注) 2	25
監査役		持田 一夫	昭和17年5月23日	昭和36年3月 当社へ入社 平成2年10月 当社 事務管理部長兼経理部長 平成3年12月 当社 取締役就任 平成8年4月 当社 取締役管理本部長 平成19年1月 当社 取締役社長付 平成19年12月 当社 取締役退任 平成19年12月 当社 監査役就任(現任)	(注) 3	70
監査役		赤木 清光	昭和28年11月25日	昭和51年4月 当社へ入社 平成2年10月 当社 営業本部事務管理課長 平成12年8月 太陽テキスタイルサポート(株)へ転籍 平成20年12月 当社 監査役就任(現任)	(注) 3	—
計						920

(注) 1. 代表取締役社長内山正治は、取締役会長渡邊義郎の次女の配偶者であります。

2. 平成19年12月20日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

3. 平成20年12月19日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況】

### (1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスの基本は「企業経営の健全性及び適法性確保にある」と考えております。そのため株主・債権者の皆様はじめ社会全体に対する経営の透明性の確保と、法に照らした行動規範を旨として経営にあっております。

また、経営環境の変化への迅速かつ柔軟に対処できるシステムの構築を重要な施策としております。

### (2) コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

#### ①会社の経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

当社は、経営戦略や中期経営計画など経営の基本に関する事項につきましては、定例又は臨時の取締役会（現在取締役5名）で審議、決定しております。

また、経営課題や具体的な施策の検討、見直し等につきましては、月1回の経営会議で課長以上の幹部社員、子会社代表も含めたメンバーで審議しております。

また、取締役は社内LANなどにおいて社員より直接かつタイムリーに報告を受けるとともに、直接本人に経営方針を伝え、全社員に経営方針を周知徹底させる努力をいたしております。

#### イ 委員会設置会社であるか監査役制度採用会社であるかの別

当社は監査役制度を採用しております。

#### ロ 社外取締役・社外監査役の選任の状況

社外取締役・社外監査役の選任は行っておりません。

#### ハ 業務執行・監視及び内部統制の仕組

監査役は取締役会への出席と意見表明により取締役の業務執行に対する監視をするほか、各部門、子会社に対する業務監査を通じグループ会社の業務執行状況をチェックしております。

#### ニ 弁護士・会計監査人等その他第三者の状況

顧問弁護士（1名）には、必要に応じて法的な判断を要する案件について指導・助言を受けております。

会計監査人である公認会計士中村孝氏及び新創監査法人には、通常の会計監査を受けるほか、トップ・マネジメントへのヒアリングにおいて、会計上の諸問題に止まらず内部統制等の経営管理体制についても指導・助言を受けております。

監査役と監査法人及び公認会計士とは、必要の都度相互に情報意見を交換し監査の実効性と効率性の向上を図っております。

#### ホ 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士の氏名は中村孝氏（公認会計士 中村孝事務所所属）及び篠原一馬氏（新創監査法人所属）であります。中村孝氏の継続監査年数は16年であります。また、会計監査業務に係る補助者は公認会計士、会計士補他計5名であります。

### (3) 役員報酬の内容

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する役員報酬は、以下のとおりであります。

区分	取締役		監査役		計	
	支給人員	支給額	支給人員	支給額	支給人員	支給額
	名	千円	名	千円	名	千円
株主総会決議に基づく報酬	2	17,400	2	6,750	4	24,150

(注) 1. 上記人員は当事業年度支給対象となった人員を記載しております。

2. 平成20年9月末における人員は取締役5名、監査役2名であります。

3. 使用人兼務役員の使用人給与相当額（賞与含む）15,600千円は含まれておりません。

4. 株主総会の決議（昭和59年12月21日）による取締役の報酬限度額は年額80,000千円であり、当該報酬は会社法第361条第1項第1号に該当する報酬であります。

5. 株主総会の決議（昭和59年12月21日）による監査役の報酬限度額は年額15,000千円であります。

(4) 監査報酬の内容

公認会計士法（昭和23年法律第103号）第2条第1項に規定する業務に基づく報酬額は年額9,600千円であり、それ以外の報酬はありません。

(5) 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

(6) 取締役の選任

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

(7) 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、自己の株式を取得することを目的とするものであります。

(8) 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であったものを含む。）及び監査役（監査役であったものを含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

(9) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

前連結会計年度（平成18年10月1日から平成19年9月30日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成19年10月1日から平成20年9月30日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度（平成19年10月1日から平成20年9月30日まで）については、「企業内容等の開示に関する内閣府令等の一部を改正する内閣府令」（平成19年8月15日内閣府令第65号）附則第10条第2項第1号ただし書きにより、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

前事業年度（平成18年10月1日から平成19年9月30日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成19年10月1日から平成20年9月30日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（平成19年10月1日から平成20年9月30日まで）については、「企業内容等の開示に関する内閣府令等の一部を改正する内閣府令」（平成19年8月15日内閣府令第65号）附則第9条第2項第1号ただし書きにより、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成18年10月1日から平成19年9月30日まで）及び当連結会計年度（平成19年10月1日から平成20年9月30日まで）の連結財務諸表並びに前事業年度（平成18年10月1日から平成19年9月30日まで）及び当事業年度（平成19年10月1日から平成20年9月30日まで）の財務諸表について、公認会計士中村 孝氏及び新創監査法人により監査を受けております。

# 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

### ① 【連結貸借対照表】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成19年9月30日)		当連結会計年度 (平成20年9月30日)		
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	
(資産の部)						
I 流動資産						
1 現金及び預金	※2		186,148		120,649	
2 受取手形及び売掛金			371,963		237,156	
3 たな卸資産			363,104		424,866	
4 未収還付消費税等			—		5,453	
5 その他			18,174		19,125	
貸倒引当金			△5,572		△3,595	
流動資産合計			933,819	21.9	803,655	20.6
II 固定資産						
1 有形固定資産						
(1) 建物及び構築物	※2	1,312,551		1,334,280		
減価償却累計額		899,536	413,014	926,017	408,262	
(2) 機械装置及び運搬具		389,157		385,157		
減価償却累計額		351,748	37,409	355,506	29,650	
(3) 土地	※2,3		2,293,314		2,293,314	
(4) その他		32,294		29,701		
減価償却累計額		29,667	2,627	27,769	1,931	
有形固定資産合計			2,746,366	64.5	2,733,160	70.1
2 無形固定資産						
(1) ソフトウェア			223		171	
(2) 電話加入権			1,124		1,124	
無形固定資産合計			1,348	0.0	1,295	0.0
3 投資その他の資産						
(1) 投資有価証券	※2		443,313		246,587	
(2) 長期貸付金			9,424		9,424	
(3) 保険積立金			70,053		79,417	
(4) その他	※1		84,819		54,768	
貸倒引当金			△29,283		△29,274	
投資その他の資産合計			578,327	13.6	360,923	9.3
固定資産合計			3,326,041	78.1	3,095,379	79.4
資産合計			4,259,861	100.0	3,899,034	100.0

		前連結会計年度 (平成19年9月30日)		当連結会計年度 (平成20年9月30日)	
区分	注記 番号	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
(負債の部)					
I 流動負債					
1 支払手形及び買掛金		144,567		32,566	
2 短期借入金	※2	677,511		659,181	
3 未払金		26,796		18,563	
4 未払費用		258		225	
5 未払法人税等		18,895		505	
6 未払消費税等		26,260		810	
7 賞与引当金		2,350		3,866	
8 その他		21,768		16,615	
流動負債合計		918,406	21.6	732,334	18.8
II 固定負債					
1 長期借入金	※2	789,159		895,211	
2 繰延税金負債		123,974		45,124	
3 再評価に係る繰延税金 負債	※3	647,913		665,381	
4 預り敷金・保証金		158,192		150,631	
固定負債合計		1,719,239	40.3	1,756,348	45.0
負債合計		2,637,646	61.9	2,488,683	63.8
(純資産の部)					
I 株主資本					
1 資本金		300,000	7.0	100,000	2.6
2 資本剰余金		122,741	2.9	322,741	8.2
3 利益剰余金		55,281	1.3	△16,352	△0.4
4 自己株式		△744	△0.0	△792	△0.0
株主資本合計		477,277	11.2	405,595	10.4
II 評価・換算差額等					
1 その他有価証券評価差 額金		182,666	4.3	63,556	1.6
2 土地再評価差額金	※3	954,643	22.4	937,175	24.1
3 為替換算調整勘定		7,627	0.2	4,023	0.1
評価・換算差額等合計		1,144,936	26.9	1,004,755	25.8
純資産合計		1,622,214	38.1	1,410,351	36.2
負債純資産合計		4,259,861	100.0	3,899,034	100.0

②【連結損益計算書】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)		当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)			
		金額 (千円)	百分比 (%)	金額 (千円)	百分比 (%)		
I 売上高			1,622,748	100.0	959,816	100.0	
II 売上原価			1,292,928	79.7	699,927	72.9	
売上総利益			329,819	20.3	259,888	27.1	
III 販売費及び一般管理費	※1,2		264,951	16.3	237,812	24.8	
営業利益			64,868	4.0	22,076	2.3	
IV 営業外収益							
1 受取利息		379			481		
2 受取配当金		3,408			4,019		
3 為替差益		41			43		
4 その他		1,287	5,117	0.3	1,263	5,807	0.6
V 営業外費用							
1 支払利息		68,039			47,203		
2 持分法による投資損失		2,005			8,176		
3 その他		10,213	80,257	4.9	6,903	62,283	6.5
経常損失			10,271	△0.6		34,400	△3.6
VI 特別利益							
1 投資有価証券売却益		1,439			—		
2 貸倒引当金戻入益		91	1,530	0.0	1,990	1,990	0.2
VII 特別損失							
1 固定資産除却損	※3	—			324		
2 長期滞留たな卸資産評価損		3,049			21,520		
3 関係会社出資金譲渡損		—			12,847		
4 たな卸資産処分損		71,784			—		
5 固定資産売却損	※4	90,411			—		
6 地震被災損		—	165,245	10.1	3,882	38,574	4.0
税金等調整前当期純損失			173,987	△10.7		70,984	△7.4
法人税、住民税及び事業税		17,883			650		
法人税等調整額		△122,182	△104,298	△6.4	—	650	△0.1
当期純損失			69,688	△4.3		71,634	△7.5



③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年9月30日 残高（千円）	300,000	122,741	△55,055	△726	366,958
連結会計年度中の変動額					
当期純利益（△当期純損失）	—	—	△69,688	—	△69,688
自己株式の取得	—	—	—	△17	△17
土地再評価差額金取崩額	—	—	180,025	—	180,025
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	—	—	—	—	—
連結会計年度中の変動額合計（千円）	—	—	110,336	△17	110,319
平成19年9月30日 残高（千円）	300,000	122,741	55,281	△744	477,277

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成18年9月30日 残高（千円）	214,647	1,134,668	4,869	1,354,184	1,721,143
連結会計年度中の変動額					
当期純利益（△当期純損失）	—	—	—	—	△69,688
自己株式の取得	—	—	—	—	△17
土地再評価差額金取崩額	—	—	—	—	180,025
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	△31,980	△180,025	2,758	△209,248	△209,248
連結会計年度中の変動額合計（千円）	△31,980	△180,025	2,758	△209,248	△98,929
平成19年9月30日 残高（千円）	182,666	954,643	7,627	1,144,936	1,622,214

当連結会計年度（自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年9月30日 残高（千円）	300,000	122,741	55,281	△744	477,277
連結会計年度中の変動額					
当期純損失	—	—	△71,634	—	△71,634
自己株式の取得	—	—	—	△48	△48
減資	△200,000	200,000	—	—	—
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	—	—	—	—	—
連結会計年度中の変動額合計（千円）	△200,000	200,000	△71,634	△48	△71,682
平成20年9月30日 残高（千円）	100,000	322,741	△16,352	△792	405,595

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成19年9月30日 残高（千円）	182,666	954,643	7,627	1,144,936	1,622,214
連結会計年度中の変動額					
当期純損失	—	—	—	—	△71,634
自己株式の取得	—	—	—	—	△48
減資	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	△119,109	△17,467	△3,603	△140,180	△140,180
連結会計年度中の変動額合計（千円）	△119,109	△17,467	△3,603	△140,180	△211,863
平成20年9月30日 残高（千円）	63,556	937,175	4,023	1,004,755	1,410,351

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

		前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
区分	注記 番号	金額 (千円)	金額 (千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純損失		△173,987	△70,984
減価償却費		42,687	34,662
出資金の譲渡損失		—	12,847
持分法による投資損失		2,005	8,176
貸倒引当金の増加額 (△減少額)		2,531	△1,986
賞与引当金の増加額 (△減少額)		△4,947	1,516
退職給付引当金の減少額		△485	—
受取利息及び受取配当金		△3,788	△4,500
支払利息		68,039	47,203
為替差益		△10	△43
投資有価証券売却益		△1,439	—
固定資産除却損		—	324
固定資産売却損		90,411	—
たな卸資産評価損		3,707	22,769
たな卸資産処分損		71,784	—
売上債権の減少額		226,941	134,807
たな卸資産の減少額 (△増加額)		48,940	△84,530
仕入債務の減少額		△161,133	△112,001
預り敷金・保証金の減少額		△7,560	△7,560
未収還付消費税等の増加額		—	△5,453
未払消費税等の増加額 (△減少額)		12,902	△25,449
その他		14,348	△10,453
小計		230,948	△60,655

		前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
区分	注記 番号	金額 (千円)	金額 (千円)
利息及び配当金の受取額		3,788	4,500
利息の支払額		△65,426	△45,695
法人税等の支払額		△1,070	△19,040
営業活動によるキャッシュ・フロー		168,239	△120,890
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出		—	△39,000
定期預金の払戻による収入		—	27,000
有形固定資産の取得による支出		△11,139	△21,728
有形固定資産の売却による収入		1,128,735	—
無形固定資産取得による支出		△263	—
投資有価証券の取得による支出		△1,467	△1,233
投資有価証券の売却による収入		3,123	—
長期貸付金の回収による収入		8,400	—
出資金の出資による支出		△4,091	—
出資金の払戻による収入		7	—
保険積立金の積立による支出		△9,481	△9,364
投資活動によるキャッシュ・フロー		1,113,823	△44,325
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の減少額		△407,000	△41,000
長期借入による収入		580,000	600,000
長期借入金の返済による支出		△1,407,736	△471,278
自己株式の取得による支出		△17	△48
財務活動によるキャッシュ・フロー		△1,234,753	87,674

		前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
区分	注記 番号	金額 (千円)	金額 (千円)
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		△9	43
V 現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)		47,299	△77,499
VI 現金及び現金同等物の期首残高		138,849	186,148
VII 現金及び現金同等物の期末残高	※	186,148	108,649

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

<p>前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)</p>
<p>1. 連結の範囲に関する事項 連結子会社の数 1社 連結子会社は、太陽テキスタイルサポート㈱であります。</p>	<p>1. 連結の範囲に関する事項 同左</p>
<p>2. 持分法の適用に関する事項 持分法適用の関連会社数 2社 持分法適用関連会社は、天津太陽毛紡有限公司及び宜興太陽毛紡織有限公司であります。</p>	<p>2. 持分法の適用に関する事項 持分法適用の関連会社数 1社 持分法適用関連会社は、宜興太陽毛紡織有限公司であります。 なお、前連結会計年度まで持分法適用関連会社であった天津太陽毛紡有限公司は、平成20年6月に合弁契約を終了したため、持分法適用関連会社ではなくなりました。</p>
<p>3. 連結子会社の事業年度等に関する事項 連結子会社（太陽テキスタイルサポート㈱）の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。</p>	<p>3. 連結子会社の事業年度等に関する事項 同左</p>
<p>4. 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 ① 有価証券     その他有価証券     時価の有るもの     …連結決算日の市場価格等に基づく時価法     (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)     時価の無いもの     …移動平均法による原価法 ② たな卸資産     イ 商品、製品、原材料及び仕掛品     …月次移動平均法による低価法     ロ 貯蔵品     …月次移動平均法による原価法 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 ① 有形固定資産     …定率法     ただし、建物（建物附属設備を除く）は定額法。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。     建物及び構築物 3～50年     機械装置及び運搬具 2～17年 (会計方針の変更)     連結会社は、当連結会計年度から、法人税法の改正に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。     これによる損益に与える影響は軽微であります。</p>	<p>4. 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 ① 有価証券     その他有価証券     時価の有るもの     同左     時価の無いもの     同左 ② たな卸資産     イ 商品、製品、原材料及び仕掛品     同左     ロ 貯蔵品     同左 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 ① 有形固定資産     同左</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)</p>
<p style="text-align: center;">—————</p> <p>② 無形固定資産 …定額法 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。</p>	<p>(追加情報)</p> <p>当社及び国内連結子会社は、法人税法改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。</p> <p>この結果、従来の方法に比べ4,857千円の営業利益が減少し、経常損失及び税金等調整前当期純損失がそれぞれ同額増加となっております。</p> <p>② 無形固定資産 同左</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)</p>
<p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>② 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度負担額を計上しております。</p> <p>③ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>(5) 重要なリース取引の処理方法 連結会社は、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(6) 重要なヘッジ会計の方法</p> <p>① ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を満たしている場合には振当処理によっております。</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段…為替予約 ヘッジ対象…買掛金</p> <p>③ ヘッジ方針 為替変動リスクの低減のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。</p> <p>④ ヘッジ有効性評価の方法 為替予約の締結時に、同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当ているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているので決算日における有効性の評価を省略しております。</p> <p>(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理方法 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。</p>	<p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 同左</p> <p>② 賞与引当金 同左</p> <p>③ 退職給付引当金 同左</p> <hr/> <p>(4) 重要なリース取引の処理方法 同左</p> <p>(5) 重要なヘッジ会計の方法</p> <p>① ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段… 同左 ヘッジ対象… 同左</p> <p>③ ヘッジ方針 同左</p> <p>④ ヘッジ有効性評価の方法 同左</p> <p>(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理方法 同左</p>



<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)</p>
<p>5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。</p>	<p>5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 同左</p>
<p>6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項 該当事項はありません。</p>	<p>6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項 同左</p>
<p>7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>	<p>7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左</p>

注記事項  
(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成19年9月30日)	当連結会計年度 (平成20年9月30日)																																																																
<p>※1. 関連会社に対するものは次のとおりであります。            その他（出資金） 48,293千円</p> <p>※2. 担保資産及び担保付債務            担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">土地</td> <td style="text-align: right;">2,206,436千円</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">325,980千円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">406,925千円</td> </tr> <tr> <td>現金及び預金（定期預金）</td> <td style="text-align: right;">40,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,979,342千円</td> </tr> </table> <p>上記のうち工場財団抵当設定分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">土地</td> <td style="text-align: right;">1,582,980千円</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">232,488千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,815,469千円</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">675,391千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">789,159千円</td> </tr> <tr> <td>受取手形割引高</td> <td style="text-align: right;">103,989千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,568,539千円</td> </tr> </table> <p>上記のうち工場財団抵当設定分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">579,721千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">556,889千円</td> </tr> <tr> <td>受取手形割引高</td> <td style="text-align: right;">103,989千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,240,599千円</td> </tr> </table> <p>※3. 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <p>再評価の方法</p> <p>土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める「地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価格を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価格」に奥行価格補正及び時点修正等を行って算出</p> <p>再評価を行った年月日 平成13年9月30日</p> <p>再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 107,027千円</p>	土地	2,206,436千円	建物及び構築物	325,980千円	投資有価証券	406,925千円	現金及び預金（定期預金）	40,000千円	計	2,979,342千円	土地	1,582,980千円	建物及び構築物	232,488千円	計	1,815,469千円	短期借入金	675,391千円	長期借入金	789,159千円	受取手形割引高	103,989千円	計	1,568,539千円	短期借入金	579,721千円	長期借入金	556,889千円	受取手形割引高	103,989千円	計	1,240,599千円	<p>※1. 関連会社に対するものは次のとおりであります。            その他（出資金） 20,185千円</p> <p>※2. 担保資産及び担保付債務            担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">土地</td> <td style="text-align: right;">2,206,436千円</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">314,367千円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">191,732千円</td> </tr> <tr> <td>現金及び預金（定期預金）</td> <td style="text-align: right;">40,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,752,536千円</td> </tr> </table> <p>上記のうち工場財団抵当設定分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">土地</td> <td style="text-align: right;">1,582,980千円</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">218,315千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,801,296千円</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">659,181千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">895,211千円</td> </tr> <tr> <td>受取手形割引高</td> <td style="text-align: right;">24,296千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,578,688千円</td> </tr> </table> <p>上記のうち工場財団抵当設定分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">558,471千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">671,141千円</td> </tr> <tr> <td>受取手形割引高</td> <td style="text-align: right;">24,296千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,253,908千円</td> </tr> </table> <p>※3. 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <p>再評価の方法</p> <p>土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める「地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価格を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価格」に奥行価格補正及び時点修正等を行って算出</p> <p>再評価を行った年月日 平成13年9月30日</p>	土地	2,206,436千円	建物及び構築物	314,367千円	投資有価証券	191,732千円	現金及び預金（定期預金）	40,000千円	計	2,752,536千円	土地	1,582,980千円	建物及び構築物	218,315千円	計	1,801,296千円	短期借入金	659,181千円	長期借入金	895,211千円	受取手形割引高	24,296千円	計	1,578,688千円	短期借入金	558,471千円	長期借入金	671,141千円	受取手形割引高	24,296千円	計	1,253,908千円
土地	2,206,436千円																																																																
建物及び構築物	325,980千円																																																																
投資有価証券	406,925千円																																																																
現金及び預金（定期預金）	40,000千円																																																																
計	2,979,342千円																																																																
土地	1,582,980千円																																																																
建物及び構築物	232,488千円																																																																
計	1,815,469千円																																																																
短期借入金	675,391千円																																																																
長期借入金	789,159千円																																																																
受取手形割引高	103,989千円																																																																
計	1,568,539千円																																																																
短期借入金	579,721千円																																																																
長期借入金	556,889千円																																																																
受取手形割引高	103,989千円																																																																
計	1,240,599千円																																																																
土地	2,206,436千円																																																																
建物及び構築物	314,367千円																																																																
投資有価証券	191,732千円																																																																
現金及び預金（定期預金）	40,000千円																																																																
計	2,752,536千円																																																																
土地	1,582,980千円																																																																
建物及び構築物	218,315千円																																																																
計	1,801,296千円																																																																
短期借入金	659,181千円																																																																
長期借入金	895,211千円																																																																
受取手形割引高	24,296千円																																																																
計	1,578,688千円																																																																
短期借入金	558,471千円																																																																
長期借入金	671,141千円																																																																
受取手形割引高	24,296千円																																																																
計	1,253,908千円																																																																

前連結会計年度 (平成19年9月30日)	当連結会計年度 (平成20年9月30日)
4. 受取手形割引高 103,989千円	4. 受取手形割引高 24,296千円
5. 期末日満期手形 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当連結会計年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。 受取手形 6,019千円	5. _____

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
※1 販売費及び一般管理費の主要な費目と金額は次のとおりであります。 従業員給与 79,266千円 役員報酬 27,000千円 減価償却費 802千円 賞与引当金繰入額 2,350千円	※1 販売費及び一般管理費の主要な費目と金額は次のとおりであります。 従業員給与 71,800千円 役員報酬 25,450千円 減価償却費 1,636千円 賞与引当金繰入額 3,866千円
※2 一般管理費に含まれる研究開発費 70千円	※2 一般管理費に含まれる研究開発費 10千円
※3 _____	※3 固定資産除却損の内訳は次の通りであります。 機械装置及び運搬器具 200千円 その他 124千円
※4 固定資産売却損の内訳は次の通りであります。 土地 68,490千円 建物及び構築物 19,654千円 その他 2,266千円	※4 _____

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成18年10月1日 至平成19年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	3,589,000	—	—	3,589,000
合計	3,589,000	—	—	3,589,000
自己株式				
普通株式	15,311	440	—	15,751
合計	15,311	440	—	15,751

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加440株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成19年10月1日 至平成20年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	3,589,000	—	—	3,589,000
合計	3,589,000	—	—	3,589,000
自己株式				
普通株式	15,751	600	—	16,351
合計	15,751	600	—	16,351

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加600株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成19年9月30日現在)	※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年9月30日現在)
現金及び預金 186,148千円	現金及び預金 120,649千円
現金及び現金同等物 186,148千円	預入期間が3か月を超える定期預金 $\Delta$ 12,000千円
	現金及び現金同等物 108,649千円

## (リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)																																
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引																																
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額	(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (千円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(有形固定資産) その他</td> <td>13,165</td> <td>1,536</td> <td>11,629</td> </tr> <tr> <td>(無形固定資産) ソフトウェア</td> <td>14,148</td> <td>1,650</td> <td>12,497</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>27,314</td> <td>3,186</td> <td>24,127</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	(有形固定資産) その他	13,165	1,536	11,629	(無形固定資産) ソフトウェア	14,148	1,650	12,497	合計	27,314	3,186	24,127	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (千円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(有形固定資産) その他</td> <td>13,165</td> <td>4,169</td> <td>8,996</td> </tr> <tr> <td>(無形固定資産) ソフトウェア</td> <td>14,148</td> <td>4,480</td> <td>9,668</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>27,314</td> <td>8,649</td> <td>18,664</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	(有形固定資産) その他	13,165	4,169	8,996	(無形固定資産) ソフトウェア	14,148	4,480	9,668	合計	27,314	8,649	18,664
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																														
(有形固定資産) その他	13,165	1,536	11,629																														
(無形固定資産) ソフトウェア	14,148	1,650	12,497																														
合計	27,314	3,186	24,127																														
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																														
(有形固定資産) その他	13,165	4,169	8,996																														
(無形固定資産) ソフトウェア	14,148	4,480	9,668																														
合計	27,314	8,649	18,664																														
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。	同左																																
(2) 未経過リース料期末残高相当額	(2) 未経過リース料期末残高相当額																																
1年内 5,462千円	1年内 5,462千円																																
1年超 18,664千円	1年超 13,201千円																																
合計 24,127千円	合計 18,664千円																																
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。	同左																																
(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失	(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失																																
支払リース料 3,186千円	支払リース料 5,462千円																																
減価償却費相当額 3,186千円	減価償却費相当額 5,462千円																																
(4) 減価償却費相当額の算定方法	(4) 減価償却費相当額の算定方法																																
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法 によっております。 (減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。	同左  (減損損失について) 同左																																

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成19年9月30日現在)

1. その他有価証券で時価のあるもの

区分	種類	取得原価 (千円)	連結貸借対照表計 上額(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの	株式	135,224	441,865	306,641
	小計	135,224	441,865	306,641
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの	株式	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		135,224	441,865	306,641

(注) なお、その他有価証券で時価のある株式の減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には当該金額の重要性、回復可能性を考慮して、必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成18年10月1日至平成19年9月30日)

売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
1,683	1,439	—

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
その他有価証券 非上場株式	1,447

当連結会計年度(平成20年9月30日現在)

1. その他有価証券で時価のあるもの

区分	種類	取得原価 (千円)	連結貸借対照表計 上額(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの	株式	132,873	243,114	110,241
	小計	132,873	243,114	110,241
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの	株式	3,584	2,024	△1,560
	小計	3,584	2,024	△1,560
合計		136,457	245,139	108,681

(注) なお、その他有価証券で時価のある株式の減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には当該金額の重要性、回復可能性を考慮して、必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

2. 時価評価されていない主な有価証券の内容

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
その他有価証券 非上場株式	1,447

(デリバティブ取引関係)

1. 取引の状況に関する事項

前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
<p>(1) 取引の内容 利用しているデリバティブ取引は、為替予約取引であります。</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 デリバティブ取引は、将来の為替の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。</p> <p>(3) 取引の利用目的 デリバティブ取引は、外貨建金銭債権債務の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図る目的で利用しております。 なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合には振当処理によっております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段……為替予約 ヘッジ対象……買掛金 ヘッジ方針 為替変動リスクの低減のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。 ヘッジ有効性評価の方法 為替予約の締結時に、同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当しているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているので決算日における有効性の評価を省略しております。</p> <p>(4) 取引に係るリスクの内容 為替予約取引は、為替相場の変動によるリスクを有しております。</p> <p>(5) 取引に係るリスク管理体制 デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、資金担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。</p>	<p>(1) 取引の内容 同左</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 同左</p> <p>(3) 取引の利用目的 同左</p> <p>(4) 取引に係るリスクの内容 同左</p> <p>(5) 取引に係るリスク管理体制 同左</p>

2. 取引の時価等に関する事項

前連結会計年度（平成19年9月30日現在）

該当事項はありません。

なお、為替予約取引を行っておりますが、ヘッジ会計を適用しておりますので、注記の対象から除いております。

当連結会計年度（平成20年9月30日現在）

該当事項はありません。

なお、為替予約取引を行っておりますが、ヘッジ会計を適用しておりますので、注記の対象から除いております。

## (退職給付関係)

前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)												
<p>1. 採用している退職給付制度の概要 当社グループは、退職一時金制度を採用しております。</p> <p>なお、提出会社は昭和59年9月より定年退職者を受給対象者とする適格退職年金制度を制度の一部として採用しております。</p> <p>2. 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">－ 千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">－ 千円</td> </tr> </table> <p>3. 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">784千円</td> </tr> </table> <p>4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項 退職給付債務の計算方法 …… 簡便法</p>	退職給付債務	－ 千円	退職給付引当金	－ 千円	退職給付費用	784千円	<p>1. 採用している退職給付制度の概要 同左</p> <p>2. 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">－ 千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">－ 千円</td> </tr> </table> <p>3. 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">7,311千円</td> </tr> </table> <p>4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項 同左</p>	退職給付債務	－ 千円	退職給付引当金	－ 千円	退職給付費用	7,311千円
退職給付債務	－ 千円												
退職給付引当金	－ 千円												
退職給付費用	784千円												
退職給付債務	－ 千円												
退職給付引当金	－ 千円												
退職給付費用	7,311千円												

## (ストック・オプション等関係)

前連結会計年度（自平成18年10月1日 至平成19年9月30日）

1. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況  
該当事項はありません。
2. スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法  
該当事項はありません。
3. スtock・オプションの権利確定数の見積方法  
該当事項はありません。
4. 連結財務諸表への影響額  
該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成19年10月1日 至平成20年9月30日）

1. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況  
該当事項はありません。
2. スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法  
該当事項はありません。
3. スtock・オプションの権利確定数の見積方法  
該当事項はありません。
4. 連結財務諸表への影響額  
該当事項はありません。



## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成19年9月30日現在)	当連結会計年度 (平成20年9月30日現在)
	(千円)	(千円)
繰延税金資産		
貸倒引当金損金算入限度超過額	14,169	12,704
未払事業所税	793	814
投資有価証券	125,405	123,546
関係会社出資金	33,492	—
税務上の繰越欠損金	7,213	—
その他	6,946	6,861
繰延税金資産小計	188,019	143,927
評価性引当額	△188,019	△143,927
繰延税金資産合計	—	—
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△123,974	△45,124
土地再評価差額金	△647,913	△665,381
繰延税金負債合計	△771,888	△710,506
繰延税金負債の純額	△771,888	△710,506

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成19年9月30日現在)	当連結会計年度 (平成20年9月30日現在)
法定実効税率	40.43 %	41.52 %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	△0.34	△0.73
住民税均等割	△0.37	△0.92
税務上の繰越欠損金の利用	29.58	—
一時差異等未認識額	△9.18	△40.49
連結上未実現利益	△1.25	△0.46
持分法による投資損失	1.15	4.78
関係会社出資金譲渡損失	—	△4.56
その他	△0.07	△0.06
税効果会計適用後の法人税等の負担率	59.95	△0.92

当社は、法定実効税率を前連結会計年度の40.43%から41.52%に変更いたしました。なお、当該税率変更による影響は軽微であります。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)

	紡績・毛織物・編織物事業 (千円)	賃貸事業 (千円)	物流事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
<b>I 売上高及び営業損益</b>						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,326,727	191,201	104,818	1,622,748	—	1,622,748
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	48,300	27,564	75,864	(75,864)	—
計	1,326,727	239,501	132,382	1,698,612	(75,864)	1,622,748
営業費用	1,281,636	124,679	146,822	1,553,137	4,741	1,557,879
営業利益又は営業損失(△)	45,091	114,821	△14,439	145,474	(80,605)	64,868
<b>II 資産、減価償却費及び資本的支出</b>						
資産	1,238,804	2,001,876	340,476	3,581,157	678,704	4,259,861
減価償却費	12,555	28,400	1,544	42,499	187	42,687
資本的支出	8,364	2,551	223	11,139	—	11,139

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各事業区分の主な商品・製品は次のとおりであります。

- (1) 紡績・毛織物・編織物事業……………紡糸、梳毛糸、毛織物、編織物商品・製品
- (2) 賃貸事業……………不動産賃貸・管理業務
- (3) 物流事業……………物流業務

3. 営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は90,320千円であり、その主なものは、親会社の総務部門に係る費用であります。

4. 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は720,505千円であり、その主なものは、親会社の余資運用資金、長期投資資金等であります。

5. 物流事業が賃貸事業より賃借している資産は302,958千円であり、その金額は物流事業に含めて表示しております。

当連結会計年度（自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日）

	紡績・毛織物・編織物事業 (千円)	賃貸事業 (千円)	物流事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
<b>I 売上高及び営業損益</b>						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	707,438	158,409	93,967	959,816	—	959,816
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	8	47,400	30,301	77,709	(77,709)	—
計	707,447	205,809	124,268	1,037,525	(77,709)	959,816
営業費用	704,220	97,194	122,840	924,254	13,484	937,739
営業利益	3,226	108,615	1,428	113,271	(91,194)	22,076
<b>II 資産、減価償却費及び資本的支出</b>						
資産	1,142,151	2,010,972	339,226	3,492,350	406,684	3,899,034
減価償却費	16,707	15,956	1,799	34,463	199	34,662
資本的支出	13,078	8,650	—	21,728	—	21,728

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各事業区分の主な商品・製品は次のとおりであります。

- (1) 紡績・毛織物・編織物事業……………紡毛糸、梳毛糸、毛織物、編織物商品・製品
- (2) 賃貸事業……………不動産賃貸・管理業務
- (3) 物流事業……………物流業務

3. 営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は96,891千円であり、その主なものは、親会社の総務部門に係る費用であります。

4. 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は464,058千円であり、その主なものは、親会社の余資運用資金、長期投資資金等であります。

5. 物流事業が賃貸事業より賃借している資産は301,510千円であり、その金額は物流事業に含めて表示しております。

**【所在地別セグメント情報】**

前連結会計年度（自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日）及び当連結会計年度（自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

**【海外売上高】**

前連結会計年度（自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日）及び当連結会計年度（自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日）

海外売上高は、いずれも連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日）

(1) 役員及び個人主要株主等

属性	氏名	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関係内容		取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員	渡邊義郎	—	—	当社代表取締役	(被所有) 直接 18.1%	—	—	当社銀行借入に対する債務被保証 (注3)	909,491	—	—
役員	内山正治	—	—	当社代表取締役	(被所有) 直接 5.7%	—	—	当社銀行借入に対する債務被保証 (注3)	1,440,200	—	—
役員の近親者	渡邊 峯 (渡邊義郎の妻)	—	—	—	(被所有) 直接 11.3%	—	—	建物の賃借 (注4)	2,400	その他の投資	1,500

(2) 子会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金（千中国元）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関係内容		取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
						役員の兼任等	事業上の関係				
関連会社	天津太陽毛紡有限公司	中華人民共和国天津市	11,477	製造業	(所有) 直接 36.9%	役員 2名	天津太陽毛紡有限公司商品の購入	天津太陽毛紡有限公司商品の購入 (注5)	2,874	—	—
								資金の貸付	—	長期貸付金	9,424
関連会社	宜興太陽毛紡織有限公司	中華人民共和国宜興市	9,960	製造業	(所有) 直接 25.8%	役員 2名	宜興太陽毛紡織有限公司商品の購入	宜興太陽毛紡織有限公司商品の購入 (注5)	161,573	—	—

(注) 1. 上記(1)～(2)の金額のうち、取引金額および期末残高には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件および取引条件の決定方針等

上記各社よりの商品の購入については、複数の見積りを入手し、毎期価格交渉の上、市場の実勢価格をみて発注先を決定しております。

3. 当社は、銀行借入に対して取締役渡邊義郎および内山正治より債務保証を受けております。

4. 社宅として利用しており、近隣の取引実勢に基づいて賃借料金額を決定しております。

5. 関連会社である天津太陽毛紡有限公司および宜興太陽毛紡織有限公司からは、紡糸糸製品を商社を通じて輸入するとともに、一部については、直接仕入も行っております。

当連結会計年度（自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日）  
（追加情報）

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準第11号 平成18年10月17日）及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日）を早期適用しております。これによって、従来の開示対象範囲に加えられる開示対象はありません。

(1) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関係当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員	渡邊義郎	—	—	当社取締役	（被所有） 直接 18.2%	—	当社銀行借入に対する債務被保証（注）	166,092	—	—
役員	内山正治	—	—	当社代表取締役	（被所有） 直接 5.9%	—	当社銀行借入に対する債務被保証（注）	1,554,392	—	—

（注）当社は、銀行借入に対して取締役渡邊義郎および内山正治より債務保証を受けております。

## (1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
1株当たり純資産額 453円99銭	1株当たり純資産額 394円76銭
1株当たり当期純損失金額 19円50銭	1株当たり当期純損失金額 20円05銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
当期純損失(千円)	69,688	71,634
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純損失(千円)	69,688	71,634
期中平均株式数(株)	3,573,283	3,572,954

## (重要な後発事象)

前連結会計年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
<p>提出会社の資本金の額が3億円でありますこと、中小企業としての優遇処置の適用除外となるものもありますことから、提出会社は平成19年11月21日開催の取締役会において、減資の決議を行い、平成19年12月20日開催の定時株主総会において減資の承認決議をしております。その概要は次のとおりであります。</p> <p>1. 減資の要領</p> <p>(1) 減少する資本金の額 資本金の額300,000千円を200,000千円減少して、100,000千円とし、減少した200,000千円はその他資本剰余金としております。</p> <p>(2) 資本金の額の減少の方法 発行済み株式総数の変更は行わず、資本金の金額のみを減少としております。</p> <p>(3) 準備金とする額 会社計算規則第50条第1項一号の規定に基づき、減少する資本金の額の全額を「その他資本剰余金」に計上としております。</p> <p>(4) 資本金の額の減少の効力発生日 平成20年1月31日を予定しております。</p> <p>2. 減資の今後の日程</p> <p>債権者異議申述公告日 平成19年12月21日(予定)</p> <p>債権者異議申述最終期日 平成20年1月24日(予定)</p> <p>効力発生日 平成20年1月31日(予定)</p>	<p>—————</p>

## ⑤【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	269,000	228,000	2.4	—
1年以内に返済予定の長期借入金	408,511	431,181	2.7	—
1年以内に返済予定のリース債務	—	—	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	789,159	895,211	2.7	平成21年10月20日～ 平成29年6月20日
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	—	—	—	—
その他有利子負債	—	—	—	—
計	1,466,670	1,554,392	—	—

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年間における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	356,092	266,808	165,896	64,981

## (2) 【その他】

該当事項はありません。

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

区分	注記 番号	前事業年度 (平成19年9月30日)		当事業年度 (平成20年9月30日)		
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	
(資産の部)						
I 流動資産						
1 現金及び預金	※1		174,228		110,627	
2 受取手形			73,628		47,094	
3 売掛金	※2		322,487		230,370	
4 商品			85,232		109,720	
5 製品			155,792		173,945	
6 原材料			120,831		135,718	
7 仕掛品			1,952		3,937	
8 貯蔵品			2,335		3,287	
9 前渡金			523		24	
10 前払費用			11,668		9,296	
11 未収入金	※2		3,778		7,339	
12 未収還付消費税等			—		5,453	
13 その他			1,753		1,805	
貸倒引当金			△5,671		△3,478	
流動資産合計			948,541	22.2	835,142	21.2
II 固定資産						
1 有形固定資産						
(1) 建物	※1	1,218,485		1,240,213		
減価償却累計額		816,976	401,508	841,386	398,827	
(2) 構築物		94,066		94,066		
減価償却累計額		82,560	11,506	84,631	9,435	
(3) 機械装置		389,157		385,157		
減価償却累計額		351,748	37,409	355,506	29,650	
(4) 器具・備品		31,248		28,759		
減価償却累計額		29,336	1,912	27,422	1,337	
(5) 土地	※1,4		2,293,314		2,293,314	
(6) その他			500		500	
有形固定資産合計			2,746,151	64.2	2,733,065	69.4



区分	注記 番号	前事業年度 (平成19年9月30日)		当事業年度 (平成20年9月30日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
2 無形固定資産					
(1) 電話加入権			1,124		1,124
(2) ソフトウェア			223		171
無形固定資産合計			1,348	0.0	1,295
3 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	※1		443,313		246,587
(2) 関係会社株式			30,000		30,000
(3) 出資金			2,562		2,563
(4) 関係会社出資金			49,487		25,368
(5) 長期貸付金			—		9,424
(6) 関係会社長期貸付金			9,424		—
(7) 再生債権			1,815		—
(8) 破産更生債権等			—		1,452
(9) 長期前払費用			6,062		4,482
(10) 保険積立金			44,679		50,871
(11) その他			26,085		26,085
貸倒引当金			△29,283		△29,274
投資その他の資産合計			584,146	13.6	367,560
固定資産合計			3,331,646	77.8	3,101,921
資産合計			4,280,187	100.0	3,937,064

		前事業年度 (平成19年9月30日)		当事業年度 (平成20年9月30日)	
区分	注記 番号	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
(負債の部)					
I 流動負債					
1 支払手形		92,059		—	
2 買掛金	※2	59,547		42,905	
3 短期借入金	※1	269,000		228,000	
4 一年以内に返済予定の 長期借入金	※1	408,511		431,181	
5 未払金	※2	20,337		15,234	
6 未払費用		258		225	
7 未払法人税等		18,535		145	
8 未払消費税等		25,447		—	
9 前受金		16,004		13,560	
10 預り金		2,672		672	
11 賞与引当金		2,350		3,866	
12 その他		571		—	
流動負債合計		915,296	21.4	735,791	18.7
II 固定負債					
1 長期借入金	※1	789,159		895,211	
2 繰延税金負債		123,974		45,124	
3 再評価に係る繰延税金 負債	※4	647,913		665,381	
4 預り敷金・保証金		158,192		150,631	
固定負債合計		1,719,239	40.2	1,756,348	44.6
負債合計		2,634,536	61.6	2,492,139	63.3

区分	注記 番号	前事業年度 (平成19年9月30日)		当事業年度 (平成20年9月30日)		
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	
(純資産の部)						
I 株主資本						
1 資本金			300,000	7.0	100,000	2.5
2 資本剰余金						
(1) 資本準備金		122,741			122,741	
(2) その他資本剰余金		—			200,000	
資本剰余金合計			122,741	2.8	322,741	8.2
3 利益剰余金						
(1) その他利益剰余金						
繰越利益剰余金		86,345			22,244	
利益剰余金合計			86,345	2.0	22,244	0.6
4 自己株式			△744	△0.0	△792	△0.0
株主資本合計			508,341	11.8	444,193	11.3
II 評価・換算差額等						
1 その他有価証券評価差額金			182,666	4.3	63,556	1.6
2 土地再評価差額金	※4		954,643	22.3	937,175	23.8
評価・換算差額等合計			1,137,309	26.6	1,000,732	25.4
純資産合計			1,645,651	38.4	1,444,925	36.7
負債純資産合計			4,280,187	100.0	3,937,064	100.0

②【損益計算書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)			当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)		
		金額 (千円)		百分比 (%)	金額 (千円)		百分比 (%)
I 売上高	※1		1,571,119	100.0		917,871	100.0
II 売上原価							
1 期首商品たな卸高		123,515			85,232		
2 期首製品たな卸高		212,506			155,792		
3 当期商品仕入高	※1	554,832			278,930		
4 当期製品製造原価		533,861			350,484		
合計		1,424,715			870,440		
5 他勘定へ振替高	※3	60,964			27,814		
6 期末商品たな卸高		85,232			109,720		
7 期末製品たな卸高		155,792			173,945		
8 固定資産貸与原価		76,945	1,199,670	76.4	61,839	620,820	67.6
売上総利益			371,448	23.6		297,050	32.4
III 販売費及び一般管理費							
1 役員報酬		24,600			24,150		
2 従業員給与手当		79,266			71,800		
3 賞与		9,082			4,023		
4 賞与引当金繰入額		2,350			3,866		
5 見本費		23,222			13,057		
6 運搬費		25,956			14,406		
7 減価償却費		802			1,636		
8 租税公課		4,859			2,484		
9 旅費・通信費		17,477			14,880		
10 交際費		1,446			1,245		
11 福利厚生費		22,129			20,276		
12 事業所税		1,962			1,962		
13 研究費	※2	70			10		
14 地代及び家賃		2,400			2,400		
15 雑費		78,755	294,381	18.7	89,320	265,523	28.9
営業利益			77,067	4.9		31,527	3.5

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)		当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)		
		金額 (千円)	百分比 (%)	金額 (千円)	百分比 (%)	
IV 営業外収益						
1 受取利息		355		455		
2 受取配当金		3,408		4,019		
3 為替差益		41		43		
4 雑収入		336		468		
5 その他		3,600	7,742	—	4,985	0.5
V 営業外費用						
1 支払利息		68,039		47,203		
2 手形売却損		1,366		962		
3 雑損失		8,290	77,696	5,924	54,090	5.9
経常利益 (△経常損失)			7,113		△17,577	△1.9
VI 特別利益						
1 投資有価証券売却益		1,439		—		
2 貸倒引当金戻入益		—	1,439	2,202	2,202	0.2
VII 特別損失						
1 固定資産除却損	※4	—		324		
2 関係会社出資金譲渡損		—		20,638		
3 長期滞留たな卸資産評価損		3,049		21,520		
4 固定資産売却損	※5	90,411		—		
5 関係会社出資金評価損		12,619		—		
6 たな卸資産処分損		71,784		—		
7 地震被災損		—	177,865	5,952	48,435	5.3
税引前当期純損失			169,312		63,810	△7.0
法人税、住民税及び事業税		17,523		290		
法人税等調整額		△122,182	△104,658	—	290	0.0
当期純損失			64,653		64,100	△7.0

製造原価明細書

		前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)		当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)	
区分	注記 番号	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 材料費	※2	367,619	69.6	224,885	63.8
II 経費		160,525	30.4	127,583	36.2
当期総製造費用		528,144	100.0	352,469	100.0
期首仕掛品たな卸高		7,669		1,952	
合計		535,813		354,421	
期末仕掛品たな卸高		1,952		3,937	
当期製品製造原価		533,861		350,484	

(注)

前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)		当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)	
1. 原価計算の方法 原価計算の方法は部門別組別総合原価計算であり、期中は予定原価を用い、原価差額はたな卸資産、売上原価等に配賦しております。		1. 原価計算の方法 原価計算の方法は部門別組別総合原価計算であり、期中は予定原価を用い、原価差額は期末においてたな卸資産、売上原価等に配賦しております。	
※2. 主な内訳は次のとおりであります。		※2. 主な内訳は次のとおりであります。	
外注加工費 160,525千円 (うち、関係会社外注加工費) (81,444千円)		外注加工費 127,583千円 (うち、関係会社外注加工費) (58,122千円)	

固定資産貸与原価明細書

		前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)		当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)	
区分	注記 番号	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
1. 減価償却費		41,757	54.3	32,904	53.2
2. 固定資産税		31,524	41.0	25,522	41.3
3. その他		3,662	4.7	3,412	5.5
固定資産貸与原価		76,945	100.0	61,839	100.0

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金		
平成18年9月30日 残高（千円）	300,000	122,741	△29,026	△726	392,987
事業年度中の変動額					
当期純利益（△当期純損失）	—	—	△64,653	—	△64,653
自己株式の取得	—	—	—	△17	△17
土地再評価差額金取崩額	—	—	180,025	—	180,025
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計（千円）	—	—	115,371	△17	115,354
平成19年9月30日 残高（千円）	300,000	122,741	86,345	△744	508,341

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成18年9月30日 残高（千円）	214,647	1,134,668	1,349,315	1,742,303
事業年度中の変動額				
当期純利益（△当期純損失）	—	—	—	△64,653
自己株式の取得	—	—	—	△17
土地再評価差額金取崩額	—	—	—	180,025
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）	△31,980	△180,025	△212,006	△212,006
事業年度中の変動額合計（千円）	△31,980	△180,025	△212,006	△96,652
平成19年9月30日 残高（千円）	182,666	954,643	1,137,309	1,645,651

当事業年度（自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金		
平成19年9月30日 残高（千円）	300,000	122,741	—	122,741	86,345	△744	508,341
事業年度中の変動額							
当期純損失	—	—	—	—	△64,100	—	△64,100
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△48	△48
減資	△200,000	—	200,000	200,000	—	—	—
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）	—	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計（千円）	△200,000	—	200,000	200,000	△64,100	△48	△64,148
平成20年9月30日 残高（千円）	100,000	122,741	200,000	322,741	22,244	△792	444,193

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成19年9月30日 残高（千円）	182,666	954,643	1,137,309	1,645,651
事業年度中の変動額				
当期純損失	—	—	—	△64,100
自己株式の取得	—	—	—	△48
減資	—	—	—	—
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）	△119,109	△17,467	△136,577	△136,577
事業年度中の変動額合計（千円）	△119,109	△17,467	△136,577	△200,725
平成20年9月30日 残高（千円）	63,556	937,175	1,000,732	1,444,925



重要な会計方針

項目	前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 …移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価の有るもの …決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価の無いもの …移動平均法による原価法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左 (2) その他有価証券 時価の有るもの 同左 時価の無いもの 同左
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法	(1) 商品、製品、原材料及び仕掛品 …月次移動平均法による低価法 (2) 貯蔵品 …月次移動平均法による原価法	(1) 商品、製品、原材料及び仕掛品 同左 (2) 貯蔵品 同左
3. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 …定率法 ただし、建物（建物付属設備を除く）は定額法 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物 3～47年 機械装置 2～17年 (会計方針の変更) 当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。 これによる損益に与える影響は軽微であります。	(1) 有形固定資産 同左 (追加情報) 当社は、法人税法改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した事業年度の翌事業年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。 この結果、従来の方法に比べ4,857千円の営業利益が減少し、経常損失および税引前当期純損失がそれぞれ同額増加となっております。

項目	前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
	(2) 無形固定資産 …定額法 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。	(2) 無形固定資産 同左
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。	—
5. 引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 (2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当期負担額を計上しております。 (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。	(1) 貸倒引当金 同左 (2) 賞与引当金 同左 (3) 退職給付引当金 同左
6. リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	同左
7. ヘッジ会計の方法	(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合には振当処理によっております。 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段…為替予約 ヘッジ対象…買掛金 (3) ヘッジ方針 為替変動リスクの低減のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。 (4) ヘッジ有効性評価の方法 為替予約の締結時に、同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当しているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているので決算日における有効性の評価を省略しております。	(1) ヘッジ会計の方法 同左 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段… 同左 ヘッジ対象… 同左 (3) ヘッジ方針 同左 (4) ヘッジ有効性評価の方法 同左
8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の処理方法 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。	消費税等の処理方法 同左

注記事項  
(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成19年9月30日)	当事業年度 (平成20年9月30日)																																																																								
<p>※1. 担保資産及び担保付債務</p> <p>担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">2,206,436千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">325,980千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">406,925千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">現金及び預金(定期預金)</td> <td style="text-align: right;">40,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,979,342千円</td> </tr> </table> <p>上記のうち工場財団抵当設定分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">1,582,980千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">232,488千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,815,469千円</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">269,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">一年以内に返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">406,391千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">789,159千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取手形割引高</td> <td style="text-align: right;">103,989千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,568,539千円</td> </tr> </table> <p>上記のうち工場財団抵当設定分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">269,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">一年以内に返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">310,721千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">556,889千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取手形割引高</td> <td style="text-align: right;">103,989千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,240,599千円</td> </tr> </table>	土地	2,206,436千円	建物	325,980千円	投資有価証券	406,925千円	現金及び預金(定期預金)	40,000千円	計	2,979,342千円	土地	1,582,980千円	建物	232,488千円	計	1,815,469千円	短期借入金	269,000千円	一年以内に返済予定の長期借入金	406,391千円	長期借入金	789,159千円	受取手形割引高	103,989千円	計	1,568,539千円	短期借入金	269,000千円	一年以内に返済予定の長期借入金	310,721千円	長期借入金	556,889千円	受取手形割引高	103,989千円	計	1,240,599千円	<p>※1. 担保資産及び担保付債務</p> <p>担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">2,206,436千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">314,367千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">191,732千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">現金及び預金(定期預金)</td> <td style="text-align: right;">40,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,752,536千円</td> </tr> </table> <p>上記のうち工場財団抵当設定分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">1,582,980千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">218,315千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,801,296千円</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">228,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">一年以内に返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">431,181千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">895,211千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取手形割引高</td> <td style="text-align: right;">24,296千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,578,688千円</td> </tr> </table> <p>上記のうち工場財団抵当設定分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">228,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">一年以内に返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">330,471千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">671,141千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取手形割引高</td> <td style="text-align: right;">24,296千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,253,908千円</td> </tr> </table>	土地	2,206,436千円	建物	314,367千円	投資有価証券	191,732千円	現金及び預金(定期預金)	40,000千円	計	2,752,536千円	土地	1,582,980千円	建物	218,315千円	計	1,801,296千円	短期借入金	228,000千円	一年以内に返済予定の長期借入金	431,181千円	長期借入金	895,211千円	受取手形割引高	24,296千円	計	1,578,688千円	短期借入金	228,000千円	一年以内に返済予定の長期借入金	330,471千円	長期借入金	671,141千円	受取手形割引高	24,296千円	計	1,253,908千円
土地	2,206,436千円																																																																								
建物	325,980千円																																																																								
投資有価証券	406,925千円																																																																								
現金及び預金(定期預金)	40,000千円																																																																								
計	2,979,342千円																																																																								
土地	1,582,980千円																																																																								
建物	232,488千円																																																																								
計	1,815,469千円																																																																								
短期借入金	269,000千円																																																																								
一年以内に返済予定の長期借入金	406,391千円																																																																								
長期借入金	789,159千円																																																																								
受取手形割引高	103,989千円																																																																								
計	1,568,539千円																																																																								
短期借入金	269,000千円																																																																								
一年以内に返済予定の長期借入金	310,721千円																																																																								
長期借入金	556,889千円																																																																								
受取手形割引高	103,989千円																																																																								
計	1,240,599千円																																																																								
土地	2,206,436千円																																																																								
建物	314,367千円																																																																								
投資有価証券	191,732千円																																																																								
現金及び預金(定期預金)	40,000千円																																																																								
計	2,752,536千円																																																																								
土地	1,582,980千円																																																																								
建物	218,315千円																																																																								
計	1,801,296千円																																																																								
短期借入金	228,000千円																																																																								
一年以内に返済予定の長期借入金	431,181千円																																																																								
長期借入金	895,211千円																																																																								
受取手形割引高	24,296千円																																																																								
計	1,578,688千円																																																																								
短期借入金	228,000千円																																																																								
一年以内に返済予定の長期借入金	330,471千円																																																																								
長期借入金	671,141千円																																																																								
受取手形割引高	24,296千円																																																																								
計	1,253,908千円																																																																								
<p>※2. 関係会社項目</p> <p>関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">流動資産</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">売掛金</td> <td style="text-align: right;">38,334千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未収入金</td> <td style="text-align: right;">3,778千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">流動負債</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">買掛金</td> <td style="text-align: right;">7,039千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未払金</td> <td style="text-align: right;">4,254千円</td> </tr> </table> <p>3. 受取手形割引高</p> <p style="text-align: right;">103,989千円</p>	流動資産		売掛金	38,334千円	未収入金	3,778千円	流動負債		買掛金	7,039千円	未払金	4,254千円	<p>※2. 関係会社項目</p> <p>関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">流動資産</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">売掛金</td> <td style="text-align: right;">54,976千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未収入金</td> <td style="text-align: right;">3,478千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">流動負債</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">買掛金</td> <td style="text-align: right;">10,339千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未払金</td> <td style="text-align: right;">2,896千円</td> </tr> </table> <p>3. 受取手形割引高</p> <p style="text-align: right;">24,296千円</p>	流動資産		売掛金	54,976千円	未収入金	3,478千円	流動負債		買掛金	10,339千円	未払金	2,896千円																																																
流動資産																																																																									
売掛金	38,334千円																																																																								
未収入金	3,778千円																																																																								
流動負債																																																																									
買掛金	7,039千円																																																																								
未払金	4,254千円																																																																								
流動資産																																																																									
売掛金	54,976千円																																																																								
未収入金	3,478千円																																																																								
流動負債																																																																									
買掛金	10,339千円																																																																								
未払金	2,896千円																																																																								

前事業年度 (平成19年 9月30日)	当事業年度 (平成20年 9月30日)
<p>※4. 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <p>再評価の方法</p> <p>土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める「地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価格を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価格」に奥行価格補正及び時点修正等を行って算出</p> <p>再評価を行った年月日                      平成13年 9月30日</p> <p>再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額                      107,027千円</p> <p>5. 期末日満期手形</p> <p>期末日満期手形の会計処理については、当期の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形の金額は、次のとおりであります。</p> <p>受取手形    6,019千円</p>	<p>※4. 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <p>再評価の方法</p> <p>土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める「地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価格を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価格」に奥行価格補正及び時点修正等を行って算出</p> <p>再評価を行った年月日                      平成13年 9月30日</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>5.</p>

## (損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
※1. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。 売上高 53,189千円 商品仕入高 178,762千円 ※2. 研究開発費の総額 一般管理費に含まれる研究開発費 70千円 ※3. 他勘定へ振替高 見本費 2,713千円 長期滞留たな卸資産評価損 12,739千円 たな卸資産処分損 44,850千円 たな卸資産評価損 657千円 雑損失 3千円 ※4. _____ ※5. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。 土地 68,490千円 建物及び構築物 19,654千円 その他 2,266千円	※1. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。 売上高 53,558千円 商品仕入高 43,913千円 ※2. 研究開発費の総額 一般管理費に含まれる研究開発費 10千円 ※3. 他勘定へ振替高 見本費 5,355千円 長期滞留たな卸資産評価損 21,210千円 たな卸資産評価損 1,249千円 ※4. 固定資産除去損の内訳は次のとおりであります。 機械装置 200千円 器具・備品 124千円 ※5. _____

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自平成18年10月1日 至平成19年9月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前期末株式数 (株)	当期増加株式数(株)	当期減少株式数(株)	当期末株式数 (株)
自己株式				
普通株式	15,311	440	—	15,751
合計	15,311	440	—	15,751

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加440株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 当期間における取得自己株式には、平成19年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満買取による株式は含まれておりません。

当事業年度 (自平成19年10月1日 至平成20年9月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式 数(株)	当事業年度減少株式 数(株)	当事業年度末株式数 (株)
自己株式				
普通株式	15,751	600	—	16,351
合計	15,751	600	—	16,351

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加600株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 当期間における取得自己株式には、平成20年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満買取による株式は含まれておりません。

## (リース取引関係)

前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)																																
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引																																
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額	(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (千円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(有形固定資産) 器具備品</td> <td style="text-align: right;">13,165</td> <td style="text-align: right;">1,536</td> <td style="text-align: right;">11,629</td> </tr> <tr> <td>(無形固定資産) ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">14,148</td> <td style="text-align: right;">1,650</td> <td style="text-align: right;">12,497</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">27,314</td> <td style="text-align: right;">3,186</td> <td style="text-align: right;">24,127</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	(有形固定資産) 器具備品	13,165	1,536	11,629	(無形固定資産) ソフトウェア	14,148	1,650	12,497	合計	27,314	3,186	24,127	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (千円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(有形固定資産) 器具備品</td> <td style="text-align: right;">13,165</td> <td style="text-align: right;">4,169</td> <td style="text-align: right;">8,996</td> </tr> <tr> <td>(無形固定資産) ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">14,148</td> <td style="text-align: right;">4,480</td> <td style="text-align: right;">9,668</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">27,314</td> <td style="text-align: right;">8,649</td> <td style="text-align: right;">18,664</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	(有形固定資産) 器具備品	13,165	4,169	8,996	(無形固定資産) ソフトウェア	14,148	4,480	9,668	合計	27,314	8,649	18,664
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																														
(有形固定資産) 器具備品	13,165	1,536	11,629																														
(無形固定資産) ソフトウェア	14,148	1,650	12,497																														
合計	27,314	3,186	24,127																														
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																														
(有形固定資産) 器具備品	13,165	4,169	8,996																														
(無形固定資産) ソフトウェア	14,148	4,480	9,668																														
合計	27,314	8,649	18,664																														
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。	同左																																
(2) 未経過リース料期末残高相当額	(2) 未経過リース料期末残高相当額																																
<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">5,462千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">18,664千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">24,127千円</td> </tr> </table>	1年内	5,462千円	1年超	18,664千円	合計	24,127千円	<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">5,462千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">13,201千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">18,664千円</td> </tr> </table>	1年内	5,462千円	1年超	13,201千円	合計	18,664千円																				
1年内	5,462千円																																
1年超	18,664千円																																
合計	24,127千円																																
1年内	5,462千円																																
1年超	13,201千円																																
合計	18,664千円																																
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い ため、支払利子込み法により算定しております。	同左																																
(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失	(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失																																
<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">3,186千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">3,186千円</td> </tr> </table>	支払リース料	3,186千円	減価償却費相当額	3,186千円	<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">5,462千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">5,462千円</td> </tr> </table>	支払リース料	5,462千円	減価償却費相当額	5,462千円																								
支払リース料	3,186千円																																
減価償却費相当額	3,186千円																																
支払リース料	5,462千円																																
減価償却費相当額	5,462千円																																
(4) 減価償却費相当額の算定方法	(4) 減価償却費相当額の算定方法																																
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法 によっております。	同左																																
(減損損失について)	(減損損失について)																																
リース資産に配分された減損損失はありません。	同左																																

(有価証券関係)

前事業年度(自平成18年10月1日至平成19年9月30日)及び当事業年度(自平成19年10月1日至平成20年9月30日)における子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成19年9月30日現在)	当事業年度 (平成20年9月30日現在)
繰延税金資産	(千円)	(千円)
貸倒引当金損金算入限度超過額	14,132	12,660
未払事業所税	793	814
投資有価証券	125,405	123,546
関係会社出資金	33,492	—
その他	6,165	6,861
繰延税金資産小計	180,769	143,883
評価性引当額	△180,769	△143,883
繰延税金資産合計	—	—
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△123,974	△45,124
土地再評価差額金	△647,913	△665,381
繰延税金負債合計	△771,888	△710,506
繰延税金負債の純額	△771,888	△710,506

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成19年9月30日現在)	当事業年度 (平成20年9月30日現在)
法定実効税率	40.43 %	41.52 %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	△0.35	△0.81
住民税均等割	△0.17	△0.45
税務上の繰越欠損金の利用	30.40	—
一時差異等未認識額	△8.20	△40.24
その他	△0.30	△0.47
税効果会計適用後の法人税等の負担率	61.81	△0.45

当社は、法定実効税率を前期の40.43%から41.52%に変更いたしました。なお、当該税率変更による影響は軽微であります。

## (1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)		当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)	
1株当たり純資産額	460円 55銭	1株当たり純資産額	404円44銭
1株当たり当期純損失金額	18円 09銭	1株当たり当期純損失金額	17円94銭
<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。</p>		<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。</p>	

(注) 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
当期純損失(千円)	64,653	64,100
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純損失(千円)	64,653	64,100
期中平均株式数(株)	3,573,283	3,572,954

## (重要な後発事象)

前事業年度 (自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日)	当事業年度 (自 平成19年10月1日 至 平成20年9月30日)
<p>当社は、資本金の額が3億円でありますこと、中小企業としての優遇処置の適用除外となるものもありますことから、平成19年11月21日開催の取締役会において減資の決議を行い、平成19年12月20日開催の定時株主総会において減資の承認決議をしております。</p> <p>その概要は次のとおりであります。</p> <p>1. 減資の要領</p> <p>(1) 減少する資本金の額 資本金の額300,000千円を200,000千円減少して、100,000千円とし、減少した200,000千円はその他資本剰余金としております。</p> <p>(2) 資本金の額の減少の方法 発行済み株式総数の変更は行わず、資本金の金額のみを減少としております。</p> <p>(3) 準備金とする額 会社計算規則第50条第1項一号の規定に基づき、減少する資本金の額の全額を「その他資本剰余金」に計上としております。</p> <p>(4) 資本金の額の減少の効力発生日 平成20年1月31日を予定しております。</p> <p>2. 減資の今後の日程</p> <p>債権者異議申述公告日 平成19年12月21日(予定)</p> <p>債権者異議申述最終期日 平成20年1月24日(予定)</p> <p>効力発生日 平成20年1月31日(予定)</p>	



## ④【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

銘柄		株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	その他有価証券	(株)りそなホールディングス	1,003	136,508
		丸紅(株)	227,791	106,606
		(株)ツカモトコーポレーション	19,750	1,599
		(株)原ウール	2,500	1,347
		みずほインベスターズ証券(株)	5,000	425
		賛羊(株)	200	100
		小計	256,244	246,587
計		256,244	246,587	

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,218,485	21,728	—	1,240,213	841,386	24,409	398,827
構築物	94,066	—	—	94,066	84,631	2,071	9,435
機械装置	389,157	—	4,000	385,157	355,506	7,558	29,650
器具・備品	31,248	—	2,489	28,759	27,422	450	1,337
土地	2,293,314	—	—	2,293,314	—	—	2,293,314
その他	500	—	—	500	—	—	500
有形固定資産計	4,026,773	21,728	6,489	4,042,012	1,308,946	34,489	2,733,065
無形固定資産							
ソフトウェア	263	—	—	263	91	52	171
電話加入権	1,124	—	—	1,124	—	—	1,124
無形固定資産計	1,387	—	—	1,387	91	52	1,295
長期前払費用	19,608	1,732	3,312	18,028	13,546	—	4,482

(注) 当期増加額の主な事由は、賃貸事業および紡績事業に係る設備の改善等であります。  
明細は、下記のとおりであります。

資産の種類	面積 (㎡)	金額 (千円)
建物 (社宅)	—	8,650
建物 (宮城工場)	—	13,078

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	34,955	—	—	2,202	32,752
賞与引当金	2,350	3,866	2,350	—	3,866

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 流動資産

イ. 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	453
預金	
当座預金	3,369
普通預金	48,279
定期預金	57,000
別段預金	1,526
小計	110,174
合計	110,627

ロ. 受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
丸高(株)	13,918
丸紅ファッションリンク(株)	12,607
伊藤忠商事(株)	5,996
蝶理(株)	3,840
根岸化学(有)	3,531
その他	7,199
合計	47,094

期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成20年10月	1,324
11月	6,294
12月	16,875
21年1月	20,040
2月	2,559
合計	47,094

ハ. 売掛金  
相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
太陽テキスタイルサポート(株)	54,976
モリリン(株)	36,803
(株)エトワール海渡	29,467
蝶理(株)	25,191
丸紅ファッションリンク(株)	13,832
その他	70,099
合計	230,370

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
322,487	963,374	1,055,491	230,370	82.1	105.0

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

ニ. 商品

品目	金額 (千円)
毛織物及び編地	109,720
合計	109,720

ホ. 製品

品目	金額 (千円)
毛糸	157,530
毛織物及び編地	16,415
合計	173,945

ヘ. 原材料

品目	金額 (千円)
原料	129,909
原糸	5,809
合計	135,718

ト. 仕掛品

品目	金額 (千円)
毛織物及び編地	3,937
合計	3,937

チ. 貯蔵品

品目	金額 (千円)
調合油他	3,287
合計	3,287

② 流動負債

イ. 買掛金

相手先	金額 (千円)
太陽テキスタイルサポート(株)	10,339
天津佳絲工場有限貴公司	9,118
東京税関東京航空貨物出張所	4,519
興源(株)	4,112
青海新力絨紡對外貿易有限公司	3,478
その他	11,336
合計	42,905

ロ. 短期借入金

相手先	金額 (千円)
(株)埼玉りそな銀行	199,000
商工組合中央金庫	25,000
(株)みずほ銀行	4,000
合計	228,000

ハ. 一年以内に返済予定の長期借入金

相手先	金額 (千円)
商工組合中央金庫	138,617
(株)埼玉りそな銀行	135,998
中小企業金融公庫	100,710
(株)みずほ銀行	55,856
合計	431,181

③ 固定負債

イ. 長期借入金

相手先	金額 (千円)
商工組合中央金庫	277,280
(株)埼玉りそな銀行	262,409
中小企業金融金庫	224,070
(株)みずほ銀行	131,452
合計	895,211

ロ. 再評価に係る繰延税金負債

内容	金額 (千円)
川口市上青木五丁目土地再評価	665,381
合計	665,381

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
株券の種類	1万株券 5千株券 1千株券 1千株未満の株式数を表示した株券
剰余金の配当の基準日	9月30日
1単元の株式数	1,000株
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、官報に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.taiyo-keito.co.jp/">http://www.taiyo-keito.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利並びに募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、上場会社ではありませんので、金融商品取引法第24条の7第1項の適用がありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第83期）（自 平成18年10月1日 至 平成19年9月30日）平成19年12月20日関東財務局長に提出

(2) 半期報告書

（第84期中）（自 平成19年10月1日 至 平成20年3月31日）平成20年6月24日関東財務局長に提出。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書

平成19年12月20日

太陽毛糸紡績株式会社

取締役会 御中

公認会計士 中村孝事務所

公認会計士 中村 孝 印

新創監査法人

指定社員 業務執行社員 公認会計士 柳澤 義一 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている太陽毛糸紡績株式会社の平成18年10月1日から平成19年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、私たちの責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。私たちは、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

私たちは、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、太陽毛糸紡績株式会社及び連結子会社の平成19年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 追記情報

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成19年11月21日開催の取締役会において減資の決議を行い、平成19年12月20日開催の定時株主総会において減資の承認決議を行っている。

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

# 独立監査人の監査報告書

平成20年12月8日

太陽毛糸紡績株式会社

取締役会 御中

公認会計士 中村孝事務所

公認会計士 中村 孝 印

新創監査法人

指定社員 公認会計士 篠原 一馬 印  
業務執行社員

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている太陽毛糸紡績株式会社の平成19年10月1日から平成20年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、私たちの責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。私たちは、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

私たちは、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、太陽毛糸紡績株式会社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

# 独立監査人の監査報告書

平成19年12月20日

太陽毛絲紡績株式会社

取締役会 御中

公認会計士 中村孝事務所

公認会計士 中村 孝 印

新創監査法人

指定社員 公認会計士 柳澤 義一 印  
業務執行社員

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている太陽毛絲紡績株式会社の平成18年10月1日から平成19年9月30日までの第83期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、私たちの責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。私たちは、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

私たちは、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、太陽毛絲紡績株式会社の平成19年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 追記情報

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成19年11月21日開催の取締役会において減資の決議を行い、平成19年12月20日開催の定時株主総会において減資の承認決議を行っている。

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

# 独立監査人の監査報告書

平成20年12月8日

太陽毛糸紡績株式会社

取締役会 御中

公認会計士 中村孝事務所

公認会計士 中村 孝 印

新創監査法人

指定社員 業務執行社員 公認会計士 篠原 一馬 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている太陽毛糸紡績株式会社の平成19年10月1日から平成20年9月30日までの第84期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、私たちの責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。私たちは、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

私たちは、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、太陽毛糸紡績株式会社の平成20年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が財務諸表に添付する形で別途保管しております。